



UP788 疾風ウインチ取扱説明書

安全に、効率よく、ご使用いただくためにも、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき本機的能力、使用方法などを十分にご理解のうえで、正しくご使用くださるようお願い致します。
また、この取扱説明書はお手元に保管して下さい。

…もくじ…

安全上のご注意	1 ページ
商品構成	8 ページ
使用上の注意	10 ページ
使用方法	14 ページ
チェックリスト	32 ページ
安全衛生教育について	33 ページ

 **ユニパック株式会社**

この度は、ユニパーウインチをお買上げいただきありがとうございます。
安全に効率よくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までよくお読み下さい。
使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

注意文「⚠ 警告」 「⚠ 注意」の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ 警告」と「⚠ 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。
尚、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守って下さい。

「⚠ 警告」・・・誤った取扱をしたときに、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容の注意。

「⚠ 注意」・・・誤った取扱をしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容の注意。

「⚠ 警告」・「⚠ 注意」以外に製品の据え付け、操作のメンテナンス等に関する重要な注意事項は「(注)」にて表示しています。安全上の注意事項と同様必ず守って下さい。

■ 安全上のご注意

- ・火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守って下さい。
- ・ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用して下さい。
お読みになった後はお使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管して下さい。

警 告

1. 作業場は、いつもきれいに保って下さい。
 - ・ ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 作業場の周囲状況も考慮して下さい。
 - ・ 本製品は、雨中で使用したり、湿った場所、または、濡れた場所で使用しないで下さい。
 - ・ 作業場は十分に明るくして下さい。
 - ・ 可燃性の液体やガスのあるところでは使用しないで下さい。
3. 子供を近づけないで下さい。
 - ・ 作業者以外、ウインチ本体、コード、スイッチ等に触れさせないで下さい。
4. 無理に使用しないで下さい。
 - ・ 安全に能率よく作業するために、本製品の能力に合った仕様で作業して下さい。
5. きちんとした服装で作業して下さい。
 - ・ だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないで下さい。
 - ・ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆って下さい。
6. コード類を乱暴に扱わないで下さい。
 - ・ コード類を引っ張ったりしないで下さい。
 - ・ コード類を熱、油、角のとがった所に近づけないで下さい。
7. 無理な姿勢で作業をしないで下さい。
8. 本製品は、注意深く手入れをして下さい。
 - ・ スイッチ、コード類、ワイヤーロープ等は、定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店またはユニパー(株)に修理を依頼して下さい。
9. 本製品を使用しない場合、修理をする場合、または危険が予想される場合はプラグを電源から抜いて下さい。

10. 油断しないで十分注意して作業を行って下さい。
- ・本製品を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周囲の状況等十分に注意をして慎重に作業して下さい。
 - ・疲れている場合は、使用をしないで下さい。
11. 損傷した部分がないか点検して下さい。
- ・使用前に、使用部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認して下さい。
 - ・部品の破損、取付状態の不備、その他運転に影響を及ぼす、すべての箇所に異常がある場合使用を中止し、お買い上げの販売店、または、ユニパー㈱に修理を依頼して下さい。
12. 指定の付属品やアタッチメントを使用して下さい。
- ・本取扱説明書やユニパー㈱のカタログに記載されている付属品及びアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの恐れがありますので使用しないで下さい。
13. 本製品の修理は、専門店で依頼して下さい。
- ・本製品を改造しないで下さい。
 - ・修理は、必ずお買い上げの販売店またはユニパー㈱にお申し付け下さい。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

■ 騒音について

ご使用に際し、周囲にご迷惑をかけないように、各都道府県等の条例で定める騒音規制以下でご使用する必要があります。必要に応じて遮音壁などを設けるなどして下さい。

■ ウインチご使用に際して

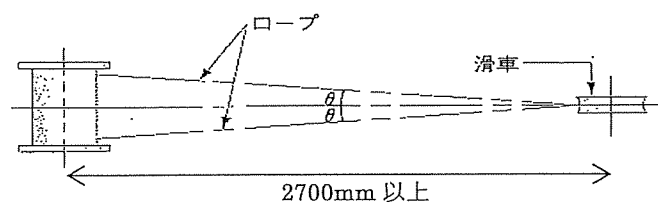
先に安全上の注意を述べましたが、ウインチをご使用の際には、さらに次に述べる警告・注意事項を守って下さい。

警 告

1. 使用電源は、銘板に表示してある電圧でご使用下さい。
 - ・表示を超える電圧を使用すると、けがや本製品の故障の原因になります。
 - 逆に電圧降下により、低くなった電圧で使用すると、機械が十分な能力を発揮できず、回路破損、モーターの破損の原因となります。
2. ワイヤロープは指定の種類、太さ、長さのものを使用して下さい。
(ワイヤロープの交換30ページ参照)
 - ・正規のワイヤロープを使用しないと事故の原因になります。
3. 最大巻揚荷重130kgを超える荷重による作業はしないで下さい。
4. ウインチはしっかりとした場所に確実に設置して下さい。
 - ・ぬかるみや水たまりなどに設置しますと事故や故障の原因となります。
5. ワイヤロープが、乱巻きの状態でご使用になりますと、機械の動作不良、故障だけではなく、ワイヤロープの早期損傷、切断による事故の原因になります。ワイヤロープが正常に巻かれていることを確かめてからご使用下さい。
6. 運転中にコード類がドラムに巻き込まれないようにして下さい。
 - ・感電の恐れがあります。
7. 運転中にワイヤロープ、ドラムなどの可動部に手や顔などを近づけないで下さい。
8. 電源部分には必ずアースをとって下さい。

9. 雨天でのご使用はやめてください。漏電や故障の原因となります。
10. ワイヤロープの交換は逆巻きにはしないで下さい。
事故や故障の原因となります。
(ワイヤロープ交換30ページ参照)
11. 寸動運転は、故障の原因となります。
12. ウインチを逆転させる場合は、完全にドラムが停止してから行ってください。事故や故障の原因となります。
13. ワイヤロープはワイヤードラムに3巻以上残して下さい。ワイヤロープを出し過ぎますとワイヤードラムからはずれて、けがや事故の原因となります。
14. ウインチと滑車の距離はフリートアングルにより規定されています。
(下図参照)
15. ウインチ運転中は、吊り荷が落下しても危険のない離れた場所で作業して下さい。
16. 使用中機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または、ユニパー(株)に点検、修理を依頼して下さい。
17. 事業主の方へ
本製品は、巻揚げ用のウインチです。『巻揚げ機の運転業務に係る特別教育』が必要です。
(労働安全衛生規制第36条11号)

■ フリートアングルについて



フリートアングルとは、滑車から下ろした垂直線と滑車の中心とドラムの端の内側と結ぶ線との角度 (θ) をいいます。この角度を (θ) を 2° 以内 (ドラム1段目のみ) にセットして下さい。この角度 (θ) よりも大きくなると乱巻きになったりワイヤロープがドラム端に近づくと重なったりします。

※ウインチと滑車の距離はドラム幅の1.5倍以上が必要です。

■ 乱巻き防止について

⚠ 警 告

- ・ワイヤーロープが乱巻きの状態または逆巻きの状態でご使用になりますと、機械の動作不良、故障だけではなく、ワイヤーロープの早期損傷、切断により事故の原因になります。ワイヤーロープが正常に巻かれていることを確かめてからご使用して下さい。

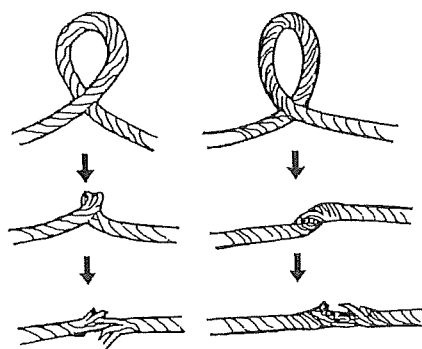
※ 乱巻き防止には次のことに注意して下さい。

- 1) ワイヤーロープを正常に巻いて、またはワイヤーロープは常に張った状態で使用して下さい。
 - ・ワイヤーロープを出し過ぎた場合や、巻き直し、交換の際は、ワイヤーロープがゆるまないように、張力をかけた状態で巻き取して下さい。
- 2) ウインチの設置が傾いていたりしますとワイヤーロープが片側により、乱巻きの原因になります。
- 3) 損傷のないワイヤーロープをご使用して下さい。
 - ・ワイヤーロープにキンク箇所や損傷があると、巻取りが不規則になり乱巻き切断の原因になります。直ちに新しいワイヤーロープと交換して下さい。
(ワイヤーロープの交換 30 ページ参照)

⚠ 警 告

右記のワイヤーは絶対に使用しないこと！

- ワイヤーひとよりの間において素線の10%以上切断しているもの
- 直径の減少が公称径の7%をこえるもの
- キンクしたもの(耐荷重が著しく低下する)
- 著しい型崩れまたは腐食があるもの



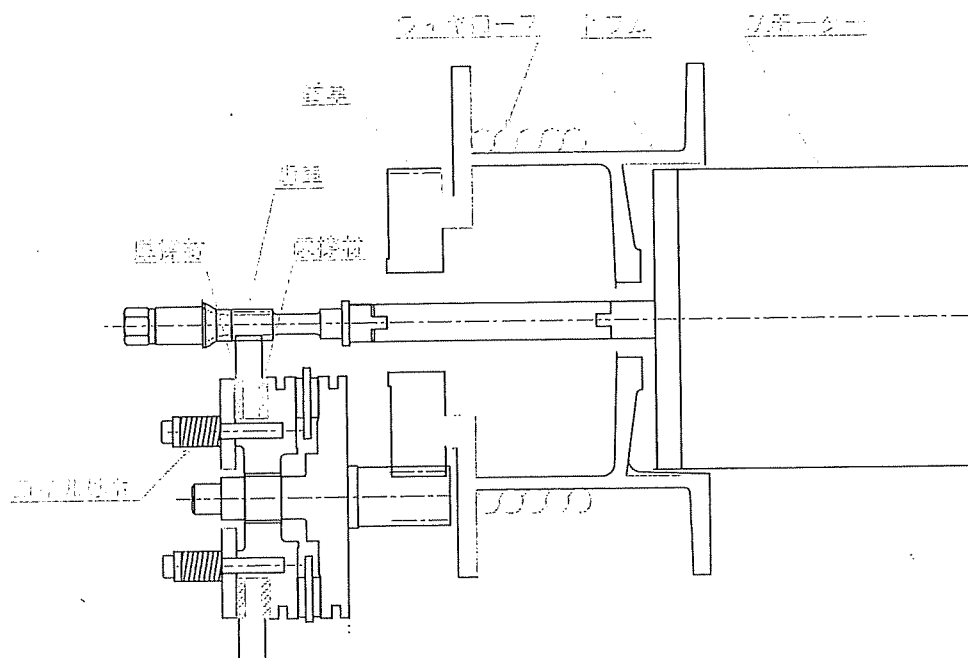
■ 過巻防止スリップ機能（トルクリミッター）

- ・本製品は、吊揚げ中にワイヤーを巻き過ぎてしまった場合に下記の様な状況でドラムがスリップする機構が付いています。

下記の内容にてスリップ機構が働きます。

1. 吊揚げ中に滑車先端に接触した状態でワイヤーを巻き過ぎた
2. 吊揚げ途中に吊荷が何かに引っかかりワイヤーを巻き過ぎた
3. 吊荷のオーバーロード状態で吊荷を巻き揚げた（荷揚げ中巻揚げできなくなります）

※ ブラケットアームに使用する滑車は安全の為オタフク滑車（シャックル式）をご使用下さい。



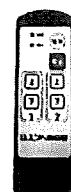
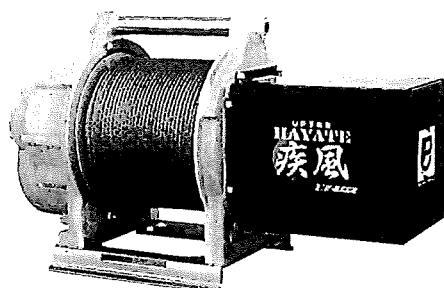
- ・歯車がマサツ材により支持されており（図参照）巻揚げ時に定格の 150%以上の負荷でマサツ材が滑り、ドラムが停止します。
- ・トルクリミッターが作動するとカラカラと言う作動音がしますのでただちに④ボタンを離して下さい。下り回転をさせる事で解除され復帰します。
- ・上部滑車への巻込み過ぎ、吊り荷重オーバー、吊荷の引掛け時の巻込み等で作動します。

注意：過巻防止機能使用について

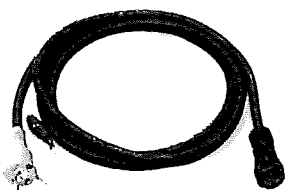
※上記機構は緊急時に働く機構です。緊急時以外の吊揚げ中に過巻防止スリップ機構は使用しないで下さい。多用しますとマサツ材が消耗しスリップ動作の負荷荷重率が変わり、設定以下の負荷でも効いてしまうようになります。

商品構成

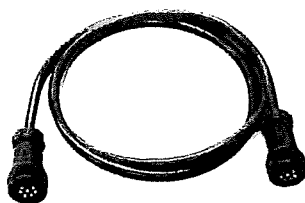
UP788 HAYATE 疾風



無線リモコン
(送信機)

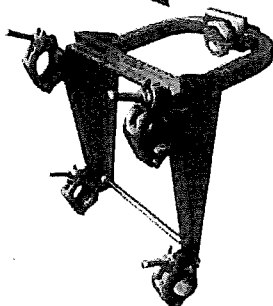


電源コード (3Pプラグ付)

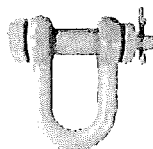


接続コード (両端8Pプラグ付)

足場
取付けベース



ラッチロックフックタイプ



シャックル



ラッチロックフック

構成表 UP788RC

型式・品名	仕様	数量	重量 (kg)	商品構成	
				ワイヤー80m巻	ワイヤー100m巻
				ラッチロックフック	ラッチロックフック
				UP788RC-80L	UP788RC-100L
ウインチ本体		1	26.5	●	●
ウインチベース		1	5	●	●
電装ボックス (無線タイプ)	電源コード付 接続コード付	1	3.5	●	●
リモコンスイッチ (無線タイプ)	リモコンカバー付	1	0.3	●	●
ラッチロックフック	シャックル付	1	4.5	●	●
ワイヤーロープ	5mm×80m	1	8	●	—
ワイヤーロープ	5mm×100m	1	10	—	●

モーター形式	腹巻式直流モーター
定格出力	1000W
電源	AC100V 50/60HZ
定格電流	15A
定格時間	5分 (連続運転5分-休止5分を基本とする)
巻揚荷重	最大130kg
巻揚速度 高速 (m/分)	荷重130kg 35m/分
巻揚速度 低速 (m/分)	荷重130kg 15m/分
ブレーキ方式	メカニカルブレーキ+発電制動
電源コード	3m (3Pメス プラグ・ボッキンプラグ・アースクリップ付)
接続コード	2m (両端8P プラグ付)
安全装置	過巻防止スリップ機能付 7ページ参照
	手動降下機能付 24ページ参照
	緊急停止機能 27ページ参照
	漏電ブレーカー 27ページ参照

※ 上記製品はワイヤーロープの長さ80m、100mの2種類の違いとなります。

2. 使用上の注意

■ 使用環境について

⚠ 警 告

下記の状況（環境）にあてはまらない場合のご使用は事故や故障の原因となり安全にご使用できません。必ず安全にご使用できる環境の下で使用（設置）を行って下さい。

1. 動作温度範囲

ウインチ本体

- ・ 0℃～60℃以内での使用

※ギヤーケースが手で触ってられない温度（60℃）になった場合は、ギヤーケースが冷えるまで休止して下さい。

電装ボックス本体

- ・ 0℃～40℃以内での使用

2. 湿度

- ・ 30%～80%RH（結露及び氷結なき事、直射日光は原則不可）

3. 定格電圧

- ・ AC100V±10%（有害なノイズを含まないこと）
- ・ 定格を超える使用はしないで下さい。

4. 環境

- ・ 雨や雪の中で使用したり、湿った場所、または、濡れた場所で使用しないで下さい。
- ・ 作業場は十分に明るくして使用（設置）を行って下さい。
- ・ 可燃性の液体やガスや粉塵のあるところでは使用しないで下さい。

5. 使用

- ・ コード類を引っ張ったりしないで下さい。
- ・ コード類を熱、油、角のとがった所に近づけないで下さい。
- ・ 本製品を使用しない場合、または危険が予想される場合はプラグを電源から抜いて下さい。
- ・ 当社指定の付属品やアタッチメントを使用して下さい。
- ・ 本取扱説明書やユニパー(株)のカタログに記載されている付属品及びアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの恐れがありますので使用しないで下さい。

5. 使用

- ・ 本製品を改造しないで下さい。
- ・ 本製品は損傷をあたえる取り扱いはしないで下さい。
- ・ 電装ボックスは他社製品（ウインチ）へのご使用はできません。
- ・ 吊荷に人は吊らないで下さい。
- ・ 吊荷の下に入らないで下さい。
- ・ 荷を吊ったまま長時間放置しないで下さい。
- ・ 構造物にフックを引掛けての地球吊りをしないで下さい。
- ・ 吊荷の動作中ワイヤーロープに触れないで下さい。

6. 点検

- ・ スイッチ、コード類等は、定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店またはユニパー(株)に修理を依頼して下さい。
- ・ 使用前に、使用部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認して下さい。
- ・ 部品の破損、取付状態の不備、その他運転に影響を及ぼす、すべての箇所に異常がある場合は使用を中止し、お買い上げの販売店、または、ユニパー(株)に修理を依頼して下さい。
- ・ 修理は、必ずお買い上げの販売店またはユニパー(株)にお申し付け下さい。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけではなく、事故やけがの原因となります。

7. 保管方法

※下記の様な場所に置くことは控えて下さい

- ・ 高温多湿のため結露しやすい場所
- ・ 腐食性ガス雰囲気中
- ・ 直接水にかかる所
- ・ 静電気の強い所や、異常放電がある所

■ 漏電遮断器

- ・ ご使用前に必ず本製品が接続される電源に感電防止用遮断器が設置されていることを確認してご使用して下さい。

■ 電源コードの接続と組立

警 告

電源だけが接続されている状態で、本製品のコード接続（組立）は感電や故障の原因となり大変危険です。必ず、本製品のコード接続（組立）後に電源の接続を行って下さい。

■ 延長コードと昇圧機（トランス）の使用

 警 告

下記の内容にて本製品をご使用して下さい。

1. 延長コードは損傷のないものをご使用して下さい。
2. 細過ぎる延長コード、長すぎる延長コード、タコ足配線でのご使用は電圧降下を起し、定格能力が出ないため火災や故障の原因となり大変危険です。

※延長コード（電線）の太さと最大の長さ

- ・延長コード（電線）の太さが2.0 mm²の場合・・・最大20 m
- ・延長コード（電線）の太さが3.5 mm²の場合・・・最大30 m

※延長コード（電線）の太さが1.25 mm²以下は使用しないで下さい。

■ 昇圧機（トランス）

昇圧機（トランス）を用いて、100 V±5 V（定格）内での使用は故障の原因になりますので、使用はしないで下さい。

■ アースの取扱い

1. コンセントが2Pの場合は感電事故防止のため、電源コード端にあるアースクリップをアース端子に接続してご使用して下さい。
2. アースが取れない状態での使用はしないで下さい。

■ 設置場所

1. 湿気の多いところ、直接水のかかるところには設置しないで下さい。
2. 雨や雪や直射日光の当たる場所には設置しないで下さい。
3. 電氣的ノイズ発生源（ウインチ本体、コンプレッサー、電動作業工具）から1 m以上離れた位置に設置して下さい。
4. 本製品は、操作する人から見通すことができる場所に設置して下さい。
5. 本リモコンシステムはビルなどの密集地、金属構造物付近、遮蔽された場所などでは受信しにくいことがあり、動作距離が短くなる場合があります。

■ 無線送信機の電池の交換（取付け）

⚠ 警 告

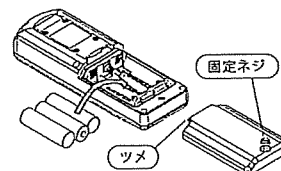
- ・ 電池の交換（取付け）の際は、受信機の電源プラグが電源コンセントに接続されていないことを確認して下さい。
- ・ 本製品を使用途中（荷揚げ途中）の状態で電池交換を行わないで下さい。

⚠ 注 意

- ・ アルカリ乾電池以外のマンガン電池、ニッカド電池での使用は実用上おすすりできません。
- ・ 新しい電池と古い電池の混載使用、種類の異なる電池での使用はしないで下さい。交換時は必ず新しい同じ電池を使用して下さい。
- ・ 電池交換の際、リモコン内部に異物が入らないようにして下さい。
- ・ 長期間使用しない場合は、リモコンから電池を抜いて保管して下さい。
- ・ 液漏れや故障の原因となります。

- ・ 単三アルカリ乾電池を3本使用して下さい。

1. リモコン本体の裏面のビスを回し、電池カバーを外します。
2. 古い電池を取り外し、電池取付け位置（＋、－）に合わせて新しい電池を間違えないよう入れます。
3. 電池カバーにツメがありますので、カバーのツメ部をリモコン本体に引掛け、ビスでしっかり締め付けて取付けて下さい。

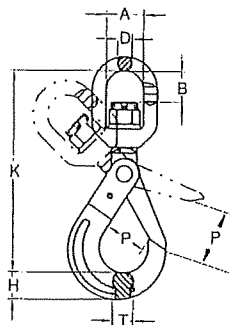


- ・ 電池交換サイン

送信機の電池残量が少なくなると、操作時に電源ランプ『赤』が点滅しブザーが継続的に鳴ります。お早めに電池交換をして下さい。

3. 使用方法

■ ラッチロックフック寸法図



A	B	D	H	K	P	T
46	43	22	39	267	52	30

※本製品にご使用の際は、最大使用荷重は130kgとなります。

■ 使用上の注意

1. 玉掛け作業は、必ずクレーン等安全規則による「玉掛け技能講習修了者」もしくは「特別教育修了者」が行って下さい。
2. 「日次点検」「月例点検」を実施して下さい。また、「半年毎に定期点検」を実施して下さい。
3. バイブロ工法など、「常時振動をうける作業」で使用される場合は、寿命が短くなるので、あらかじめご理解下さい。
4. 荷は「フックの中央」で吊り「当り吊り」「こねた状態」で吊らないで下さい。また、衝撃荷をかけないで下さい。
5. 吊り作業に際しフックに指を入れないで下さい。
6. 「日次点検」「定期点検」に関しては、別記のとおり実施して下さい。

■ 日次点検

変形 : フックの開き、へこみ、ゆがみを目視で確認して下さい

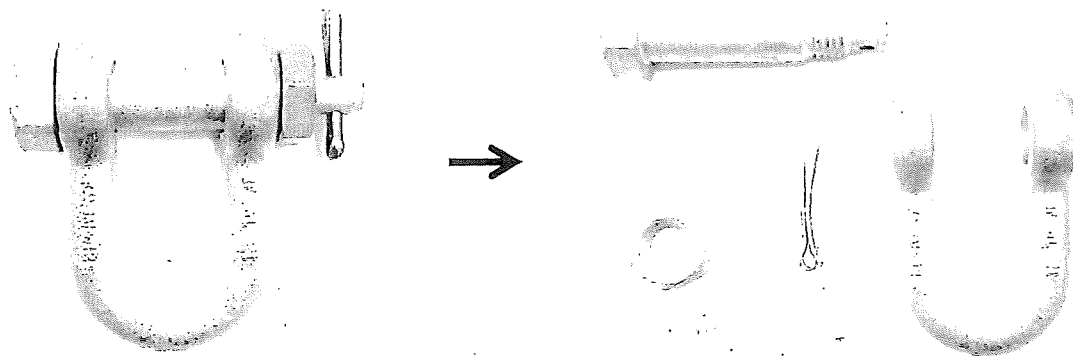
摩耗、腐食、きず など : 摩耗、腐食、きず、き裂がないこと

回転 など : 滑らかに回転すること、開閉部がスムーズに作動すること

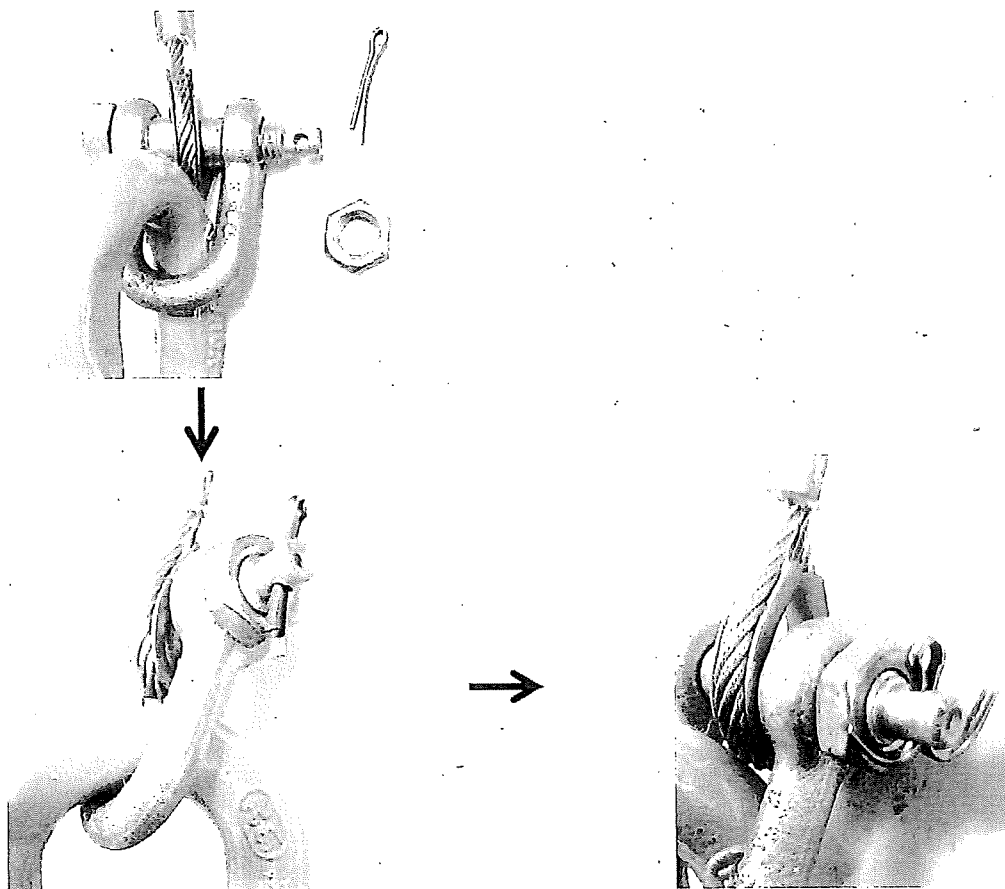
■ 定期点検 : 日時点検に加え、開口部が 5 % 以上の開きがないことをノギスで計測して下さい

シャックル取付方法

1. シャックルの割りピンとナットを取り外します。



2. シャックル本体をラッチロックフックに通し、ボルトをワイヤーに通します。最後にナットをしっかりと締めボルト先端に割りピンを差し込みます。最後に割りピンが抜けないように、左右に開きます。

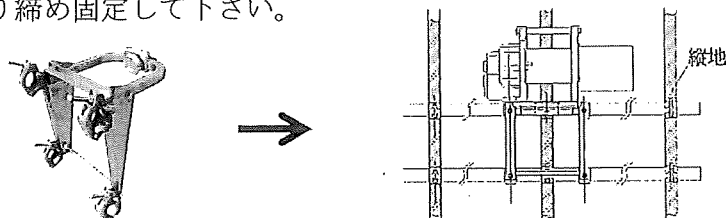


■ ウインチ取付方法

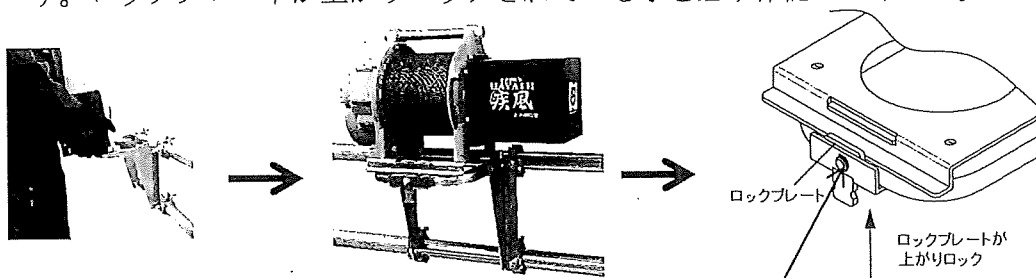
1. 足場用ウインチベースを単管パイプに水平に取付けます。

(支柱は2本以上絡めて下さい)

ベース本体は足場支柱をセンターにして4点のクランプをしっかりと締め固定して下さい。



2. ウインチ本体を足場用ウインチベースの上にスライドさせて差込みます。差込み後、前面ロックプレートが上に出てウインチ本体がロックされます。ロックプレートが上がりロックされている事を必ず確認して下さい。

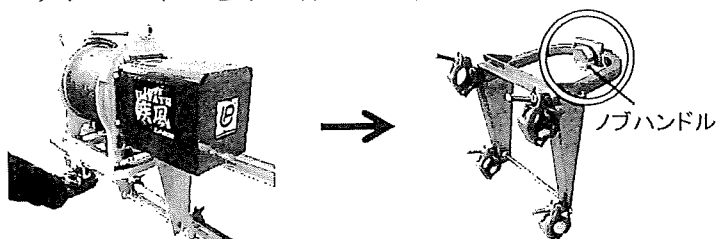


警告

インパクトレンチでナットの締め込みはしないで下さい。

ロックプレートをウインチベース本体にロックせず使用した場合ウインチが浮き上がり大変危険です。

3. 足場用ウインチベースとウインチ本体をウインチベース裏側のノブハンドルを手で締め込み固定します。

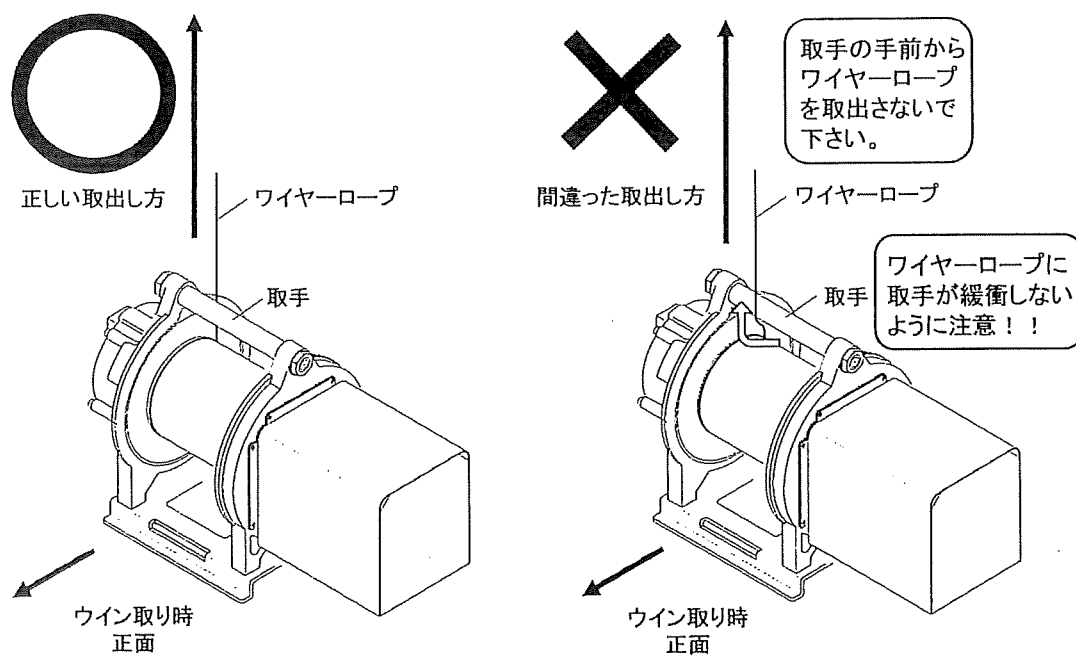


警告

ご使用前に必ずウインチベース本体のクランプ、裏側ノブボルトをしっかりと締め込みご使用して下さい。固定せず使用した場合、製品故障や破損、重大な事故の原因になります。

■ ワイヤーロープの取出し方

1. ワイヤーロープの取出しは取手の裏側から取出して下さい。



⚠ 警 告

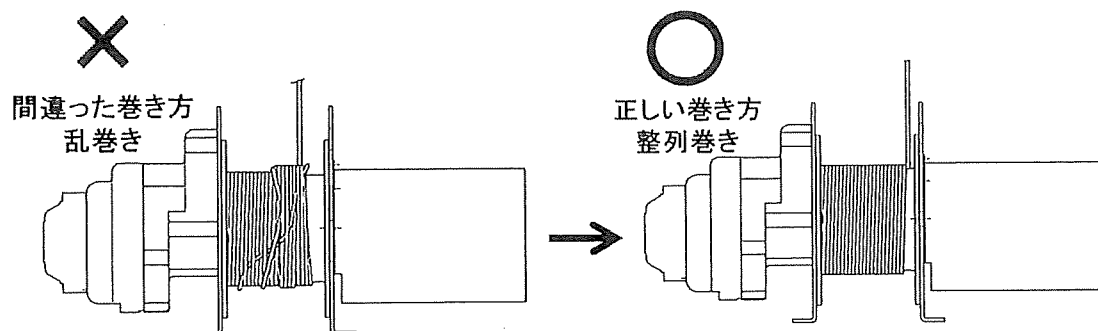
ワイヤーロープは上記の取出し方で使用して下さい。正規のワイヤーロープの出し方以外での使用すると製品とワイヤーロープの破損損傷につながり重大な事故の原因になります。

⚠ 警 告

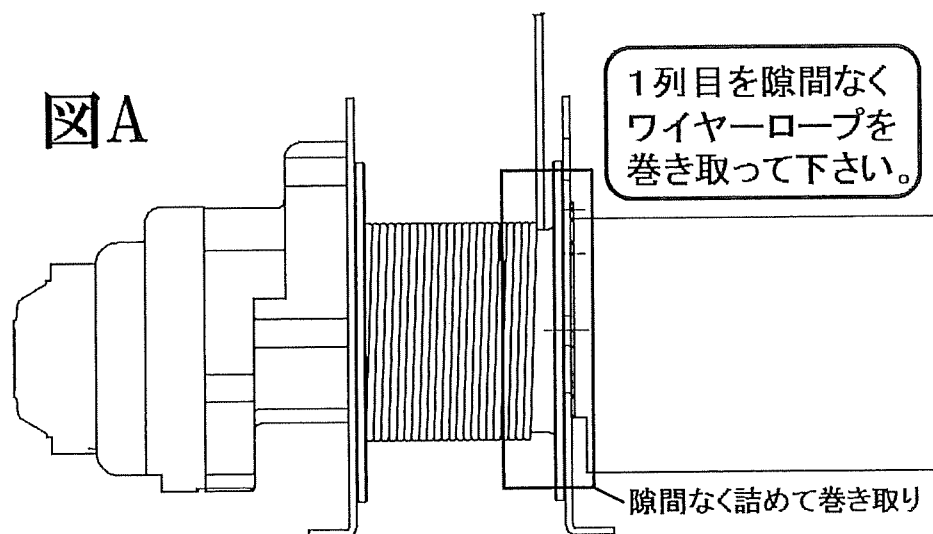
ワイヤーロープの間違った取出し方で使用すると、ワイヤードラム上の取手を削ってしまい、ウインチ本体への大きな破損損傷につながり重大な事故の原因になります。

■ ワイヤーロープの取出し方

1. ワイヤーロープがドラム内で乱巻き状態になった時は整列巻きに修正してから使用して下さい。乱巻きのまま使用するとワイヤーロープのキンク、つぶれの原因になります。



2. 下記の図 A のように 1 列目のワイヤーロープを整列巻きに整え
1 列目を隙間なくドライバー、シノなどでワイヤーロープを寄せて
巻く事で 2 列目以降も整列巻きになります。

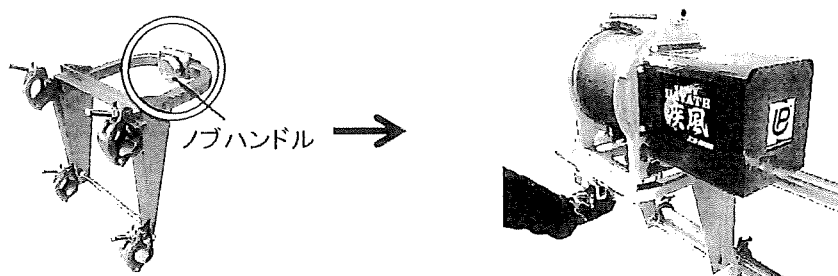


⚠ 警 告

1 列目に隙間があるままワイヤーロープを巻き取ってしまうと
使用中に隙間にワイヤーロープが入り込んで、つぶれやキンクの
原因となりワイヤーロープの破損損傷につながり重大な事故の原
因になります。

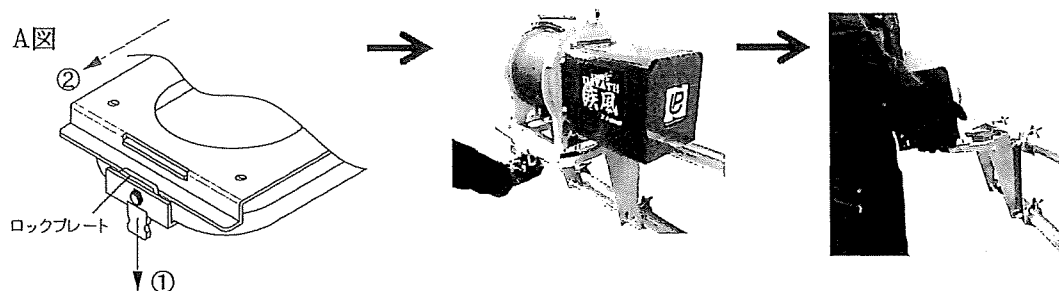
■ ウインチ取外し方法

1. ワイヤロープを全てウインチ本体に巻き取り、ウインチベース裏側のノブボルトを緩めます。



1. A図 ウインチベース本体のロックプレート①矢印の下方方向に引っ張りながら緩めたノブボルトを締め込みロックプレートが下がった状態にします。

ウインチ本体を②矢印の手前方向にスライドさせてウインチ本体を取外して下さい。



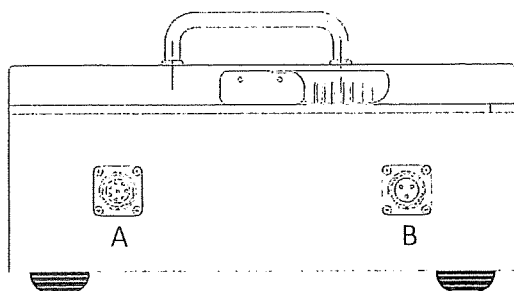
 警 告

ウインチ取外し時は、吊り荷を吊ったまま取外しは行わないで下さい。
吊り荷を吊ったままウインチ本体のノブボルトを緩めロックプレートを
下げた状態にすると、荷物や本体の落下などによる製品故障や破損、
重大な事故の原因になります。

■ 無線タイプ接続方法

⚠ 警 告

- ・ ウインチ本体の電源が入っていない状態で、電装ボックス（無線タイプ）を接続して下さい。電源が入っている状態で接続を行うと漏電や感電、またウインチの故障の原因となり大変危険です。
- ・ 周辺の安全確認を行ってから、電源を入れて下さい。



各部名称

A 電装ボックス本体	ウインチ接続用レセプタクル 8 P (メス)
B 電装ボックス本体	ウインチ電源接続用レセプタクル 3 P (オス)
C 電源コード	ウインチ電源接続用プラグ 3 P (メス)
D 電源コード	ポッキンプラグ (アースクリップ付)
E 接続コード	電装ボックス用プラグ 8 P (オス)
F 接続コード	ウインチ本体用プラグ 8 P (オス)
G 無線リモコン	送信機

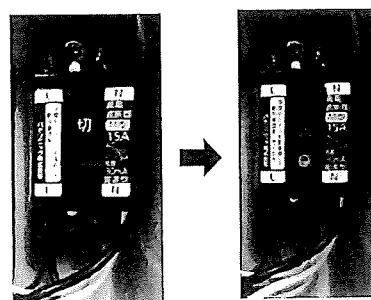
※接続図 25 ページ参照

■ 接続手順

1. 電装ボックス（無線タイプ本体）に電源（接続コード）を接続して下さい。
・接続コード→電装ボックス→ウインチ（電源）の手順で接続を行って下さい。
※ウインチ（電源）プラグ端にあるアースクリップ（D）アースを必ず取ってご使用して下さい。
2. すべての接続が終わった後に電源コードプラグ（D）をコンセントに差込んで下さい。

■ 無線受信機内蔵ブレーカー

- ・電装ボックス（無線タイプ本体）接続後、
運転を行う前に電装ボックス内の漏電ブレーカーを確認して下さい。
漏電ブレーカーが切（OFF）場合、使用前に必ず電源を抜いた状態で入（ON）に切替えてから電源をコンセントに差込み使用して下さい。



（ブレーカー）

※電装ボックス（無線タイプ本体）内の漏電ブレーカーは過電流、漏電時に動作するブレーカーです。ブレーカーをスイッチとして入（ON）、切（OFF）するご使用はしないで下さい。

※電装ボックス（無線タイプ本体）内の漏電ブレーカー以外は精密機器のため触れないで下さい。もし何かの理由で動作しなくなった場合、ユニパー(株)に修理を依頼して下さい。

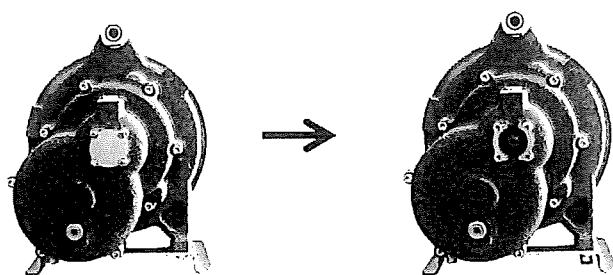
⚠ 警 告

コンセントが2Pの場合は感電事故防止のため、電源コード端にあるアースクリップをアース端子に接続して使用して下さい。
アースが取れない状態で使用すると製品故障や破損、重大な事故の原因になります。

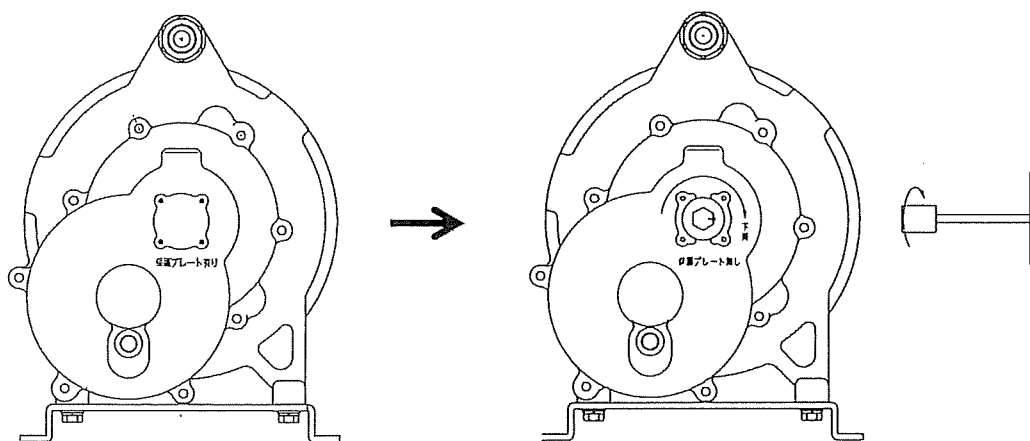
■ 手動降下機構

- ・ 万が一何かの原因で吊揚げ途中にウインチが動作しなくなった場合
下記の手順にて吊下げを行って下さい。

1. ウインチ本体ギヤケース正面、保護プレートの 4mm のプラスネジ 4 本外し
保護プレートを取り外します。



2. 保護プレートを外した本体の六角ボルトにボックスレンチ (M8_13mm)
先端を差し込み時計回りに回転させ下降をさせて下さい。

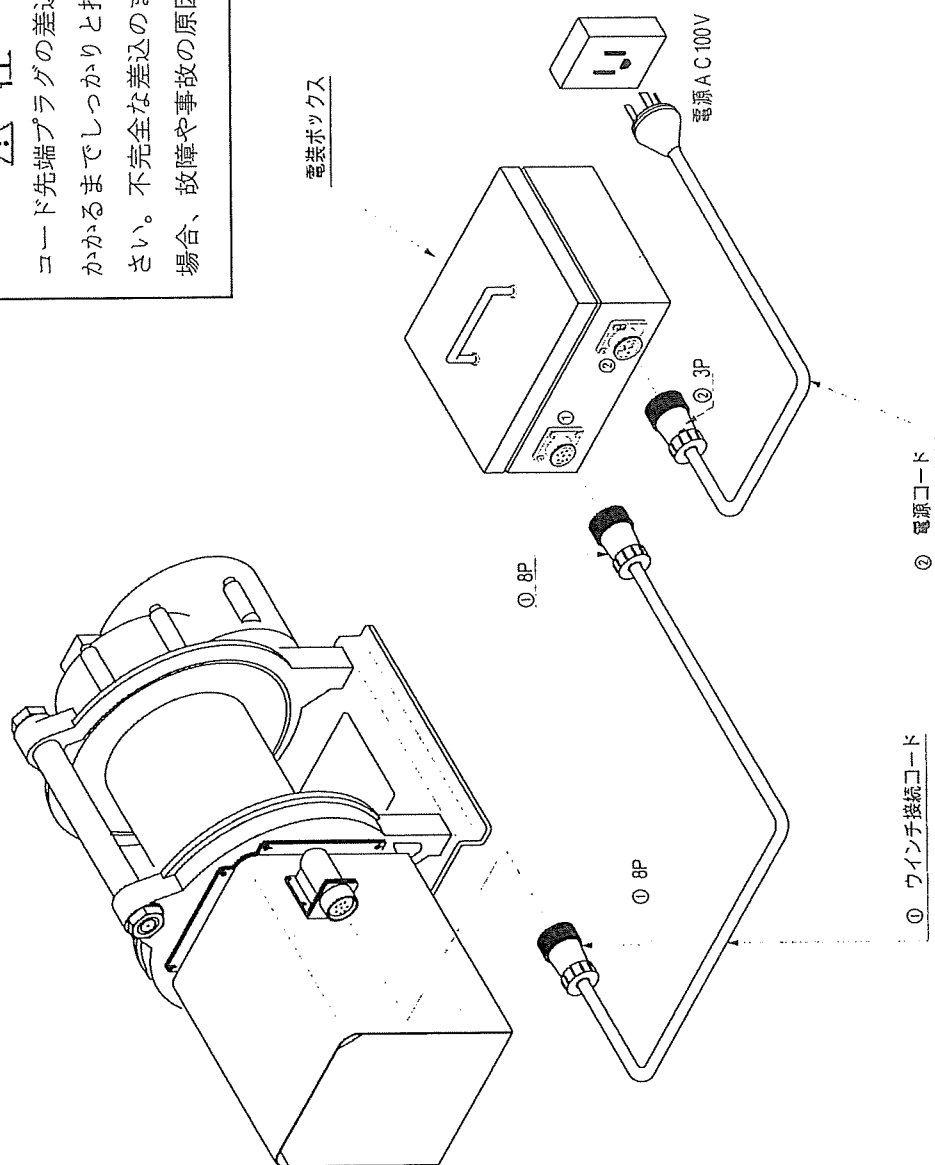


※上記機構での吊揚げはできません。また電動工具を用いての手動下降機構
のご使用は故障の原因となるため電動工具は使用しないで下さい。
※手動下降機構はウインチが動作しなくなった緊急時のみ使用して下さい。

■ UP788RC 無線タイプ 疾風ウインチ 接続図

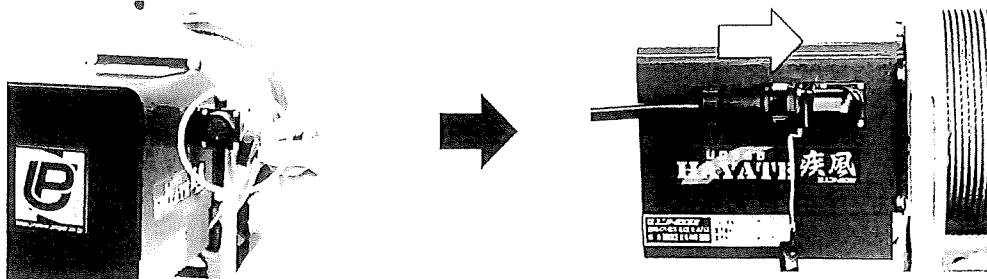
⚠ 注意

コード先端プラグの差込は、ロックがかかると押し込みができません。不完全な差込のまま使用をします。場合、故障や事故の原因となります。



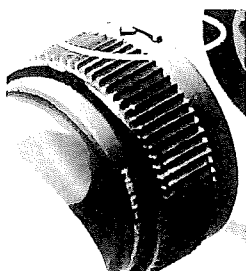
■ 電源、接続コードの取付けと取外し

1. ウインチ本体の接続

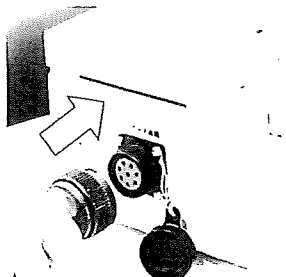


- ・ ウインチ本体のコネクターキャップを外し、接続コード先端(プラグ)を矢印(→)方向に差し込む。

※プラグの差込は下記のプラグ本体の矢印部分を上にして差込を行って下さい。
差込後、接続コード先端(プラグ)が抜けない事を確認して下さい。

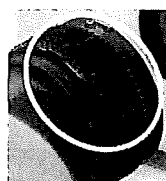


2. 電装ボックスの接続



- ・ 電装ボックス本体のコネクターキャップを外し、接続コード先端(プラグ)を矢印(→)方向に差し込む。(プラグの差込向きは上記矢印部分と同じ)

3. 電源、接続コードの取外し



- ・ 上記コード先端(プラグ)部分を半時計回りに回しながら、コード先端(プラグ)部分を取り外して下さい。

⚠ 注 意

プラグ差込はロックがかかるまでしっかりと押し込んでください。不完全な差込のまま使用した場合、故障や事故の原因となります。

■ 無線送信機

電源（入） ・ 使用（運転）可能状態にします。
電源ボタンを長押しすることにより電源が入り、ブザーが『ピッ』と鳴り電源ランプが『赤』に点灯します。

※誤動作防止のため使用しない時は電源を切っておいて下さい。

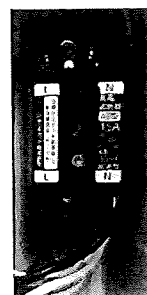
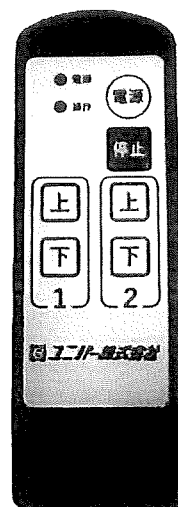
電源（切） ・ 使用（運転）不可状態にします。
電源ボタンを長押しするとブザーが『ピーッ』と鳴り電源ランプが消え、電源を遮断します。

※送信機を使用しない時は、こまめに電源を切ると電池の節約となります。

停止 ・ 全ての運転ができなくなります。
停止ボタンを押すと電装ボックス内の漏電ブレーカーが切（OFF）になり電源を遮断します。
再度、使用（運転）を行う場合は電装ボックスの電源コード（プラグ）を抜き、漏電ブレーカーを入（ON）に切替てから、電源コード（プラグ）をコンセントに差し込み無線送信機の電源を入れて使用して下さい。

※ブレーカーをスイッチとして入（ON）、切（OFF）するご使用はしないで下さい。

- | | |
|-----|--------------------------|
| 1 上 | ・ スイッチボタンを押し続ければ高速上昇します。 |
| 1 下 | ・ スイッチボタンを押し続ければ高速下降します。 |
| 2 上 | ・ スイッチボタンを押し続ければ低速上昇します。 |
| 2 下 | ・ スイッチボタンを押し続ければ低速下降します。 |



■ 無線送信機

※スイッチボタンを押すと無線送信機本体の操作ランプが『緑』に点灯し、押されたスイッチボタンの電波を送信します。ボタンから手を放すと電波の送信が終了し、操作ランプが消灯します。電波送信中は、電源ランプは消灯しています。

■ オプション品

- ・無線送信機は最大2個使用可（別売）2個使用する際は、IDコード登録（ペアリング）登録が必要です。IDコード登録（ペアリング）はユニパー(株)で行いますので、無線リモコンスイッチを追加する場合は、ユニパー(株)に電装ボックス（無線タイプ本体）と無線送信機を送って下さい。

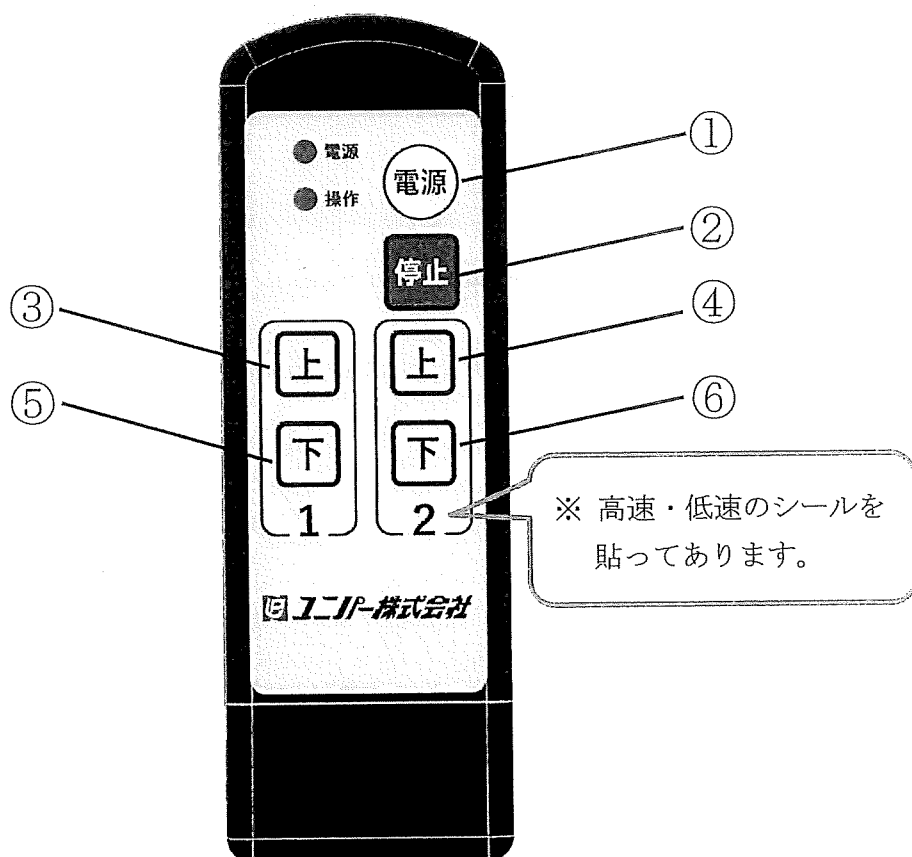
■ 故障かな？と思ったら

動作しにくくなった・動作しなくなったと感じたら、下記の内容を確認して下さい。

- ・送受信機の電源は入っていますか？
- ・電池の向きは正しいですか？
- ・電池が消耗していませんか？ ※ 1
- ・別の送信機で正常に動作しますか？
- ・送信機を金属で覆っていませんか？
- ・操作中に送信機を金属に近づけていませんか？
- ・送信機と受信機の上に障害物はありませんか？
- ・周囲にモーターなどのノイズ源はありませんか？

※ 1 新品の電池であっても1.3V以下の電圧では正常に動作しません。

4. 無線送信機 オートパワーオフ設定方法



1. 無線送信機の電源が切れた状態から設定します。
2. 無線送信機の⑤番ボタンを押しながら①電源ボタンを押し電源オンにする。
電源LED（赤）が点灯するので①電源ボタン、⑤番ボタンの順に離す。
（必ず①電源ボタンから離す）
ボタンを離すと、断続的なブザー音と共に、電源LED（赤）が点灯する。
3. 下記のいずれかのボタンを押し、希望の時間に設定する。
3番ボタン : 1分（出荷時設定）
4番ボタン : 5分
5番ボタン : 15分
6番ボタン : 30分
電源LED（緑）が点灯し約2秒後に消灯する（ブザー音あり）
（3. の操作は30秒以内に完了すること）
4. 無線送信機の電源は自動的に切断されるので、再度①電源ボタンを
押し電源を入れる。これで全ての設定が完了します。

■ ワイヤロープの交換および点検

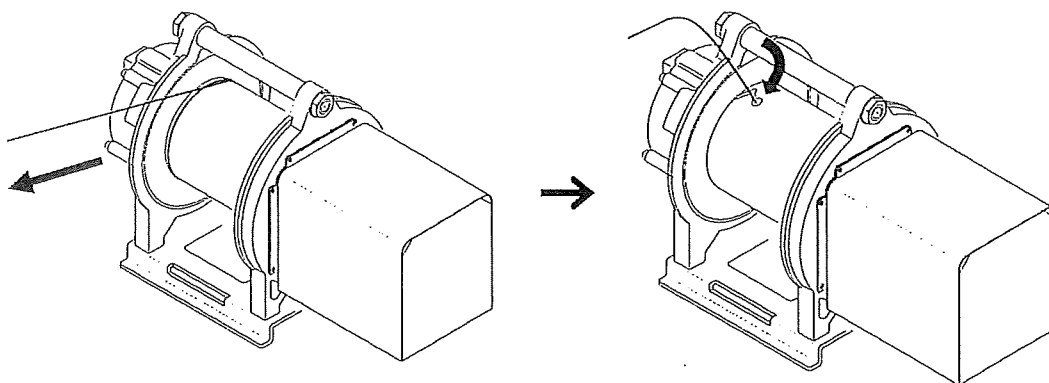
- ・ ワイヤロープの交換 (UP 788 標準ワイヤロープ 5mm×80m)
(UP 788 標準ワイヤロープ 5mm×100m)

- ・ ワイヤロープ取外し

⑩ボタンを押し古いワイヤロープをすべて引出して下さい。

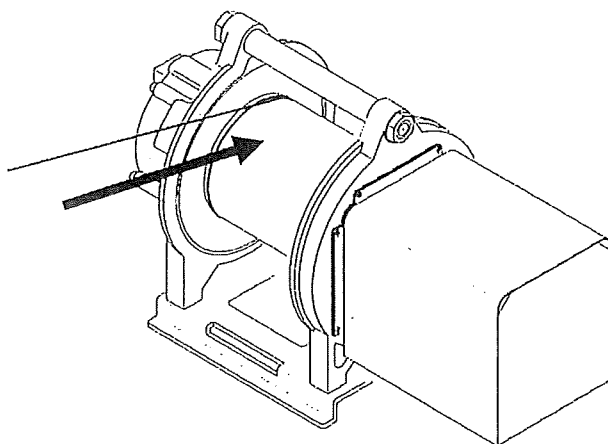
- ・ ワイヤロープ取付け

ワイヤロープのコブをドラム長穴にひっかけて下さい。



- ・ ワイヤロープ巻取り

ワイヤロープを手前に引きながら④ボタンを押しワイヤロープを巻き取る。この際ワイヤロープにゆるみがなく整列に巻くよう注意して下さい。



⚠ 注 意

巻取りの際、ドラムに手を、巻き込まれないよう充分注意して下さい。

⚠ 警 告

ワイヤーの太さは、5 mm未満のワイヤーを使用しないで下さい。

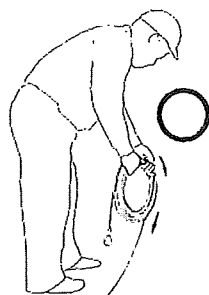
ワイヤーの長さは、5 mmで最大100 mまでの長さのワイヤーを使用して下さい。

※ワイヤー先端コブの差込み口はウインチの機種により異なります。

※ユニパー指定のワイヤー以外はご使用しないで下さい。

※ワイヤー太さ5 mm未満の物はキンク、損傷が起こりやすくなる為、ご使用しないで下さい。

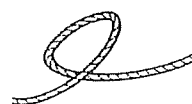
・ワイヤーのほどき方



ころがしてのばす



置いたままのばす



注 意

ほどく途中で輪ができた場合は正しく直してからほどいて下さい。そのままほどきますとキンクします。

5. チェックリスト

荷揚機を安全に効率よく使用するためには日頃の点検、定期点検が必要です。
点検を欠かさず安全作業に心がけて下さい。

ウインチ作業開始前点検チェックリスト

年 月 日 ～ 月 日

点 検 項 目		点 検 結 果							どのように なっているか いつ正したか
		／	／	／	／	／	／	／	
据 付 ・ 組 立	水平に取付けられているか								
	各ネジ類にゆるみはないか								
	水や雨に濡れないようにしているか								
	ウインチの取付けは正しいか								
	試運転時に異常はないか								
電 気	電源は正しいか 100V、15A以上								
	漏電ブレーカーはついているか								
	たこ足配線はしていないか								
	コード類に損傷はないか								
ワ イ ヤ ー	索線切れ、損傷、摩耗、キンク等異常ないか								
	ドラムに3巻き以上残っているか								
	ドラムへの取付は正常か								
	乱巻になっていないか								
	巻取方向はあっているか								
動 作	操作スイッチに損傷はないか								
	正常に操作できるか								
	速度は正常か								
	滑車の取付は正常か								
	滑車プーリーの回転は正常か								
	ブレーキの作動は正常か								
	回転時異音はないか								
そ の 他	ラッチロックフックのロックが正常に効くか								
	各部品の破損はないか								
点 検 者 確 認 欄									

6. 安全衛生教育について

事業者は労働者を

- 雇入れたとき
- 作業内容を変更したとき
- 危険又は有害な業務に労働者をつかせるとき

安全衛生教育を行わなければなりません。(労働安全衛生法第59条) "危険又は有害な業務、の一つに動力により駆動させる巻上機(ウインチ)の運転があり特別教育が必要です。(労働安全衛生規則第36条) したがってウインチの運転にあたっては、特別教育を修了したもので事業者から指名されたものを行わなければなりません。

(安全衛生特別教育規程第14条)

● 学科教育

科 目	範 囲	時間
巻上げ機に関する知識	巻上げ機の原動機、ブレーキ、クラッチ、巻胴、逆転防止装置、動力伝達装置、電気装置、信号装置、連結器材、安全装置、各種計器及び巻上用ワイヤーロープの構造及び取扱いの方法、巻上げ機の据付方法	3 時間
巻上げ機の運転に必要な一般的事項に関する知識	合図方法、荷掛方法、連結方法、点検方法	2 時間
関係法令	労働安全衛生法、施行令、及び労働安全衛生規則中の関係条項	1 時間

○ 実技教育

科 目	範 囲	時間
巻上げ機の運転	荷の巻上げ及び巻卸し	3 時間
荷掛け及び合図	荷の種類に応じた荷掛け手、小旗等を用いて行う合図	1 時間

(注意) 満18才未満の者はウインチの運転を行なう事はできません。

※安全衛生教育テキストの必要な方はユニパー欄までお申し出下さい。実費にてお分け致します。

部品のご入り用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店、またはユニパー(株)にお問い合わせ下さい。

※ 改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

製造元

 **ユニパー株式会社**

神奈川県横浜市都筑区大熊町 814

TEL 045-471-0015

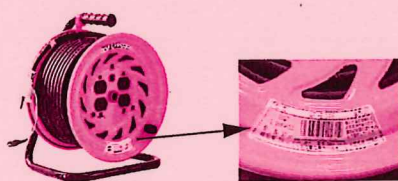
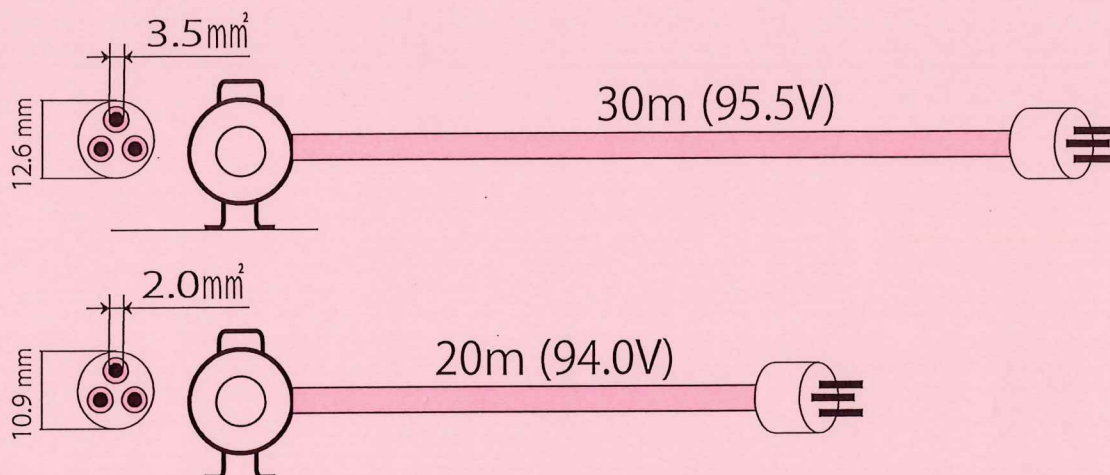
電圧低下について

【疾風ウィンチご使用時の注意点】

電線に電流を流すと電圧低下が発生し、コンセントから取れる電圧が低くなります。

電圧低下は、電線が細いほど、又は長く伸ばすほど大きくなります。

下記の表は、電線の太さ対して電線をのばせる長さとなります。



※自社でご使用の電工ドラム及び延長コードをご確認ください。

【電圧低下表】

※疾風ウィンチ AC100V15A 下記数値は電圧 100V に対しての電圧低下値となります。

	電線の太さと芯数	全巻時 ※1	電線許容電流	10m	20m	30m	50m
※推奨品	VCT3.5mm ² ×3芯	7A	32A	98.5V	97.0V	95.5V	92.5V
	VCT2.0mm ² ×3芯	5A	22A	96.5V	94.0V	90.0V	85.0V
使用不可	VCT1.25mm ² ×3芯	4A	16A	95.5V	90.0V	86.0V	77.0V

※1. ドラムから電線を伸ばさないで使用しますと、全巻時のアンペアとなりドラム内に熱がこもり大変危険です。

注1：電線は必ず、伸ばしてご使用ください。

注2：電源を十分確保してご使用下さい。

(電源が満たないと、吊荷が上がらず、モーターに負担がかかり故障の原因となります)

注3：電工ドラムを30m以上伸ばす場合、インバーター付き発電機のご利用をお願いします。

(交流 100V、3000W 又は 3.0KVA 以上)

SILVER UNIFORM

UP303 シルバーユニフォーム

取扱説明書

 **ユニパック株式会社**

《はじめに》

この度は、ユニパーウインチをお買上げいただきありがとうございます。
安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までよくお読み下さい。
使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

注意文「 警告」 「 注意」の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」と「 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

尚、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

「 警告」・・・誤った取扱をしたときに、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容の注意。

「 注意」・・・誤った取扱をしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容の注意。

「 警告」・「 注意」以外に製品の据え付け、操作のメンテナンス等に関する重要な注意事項は「(注)」にて表示しています。

安全上の注意事項と同様必ず守ってください。

■ 安全上のご注意

- ・ ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。

お読みになった後はお使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

取扱上の注意

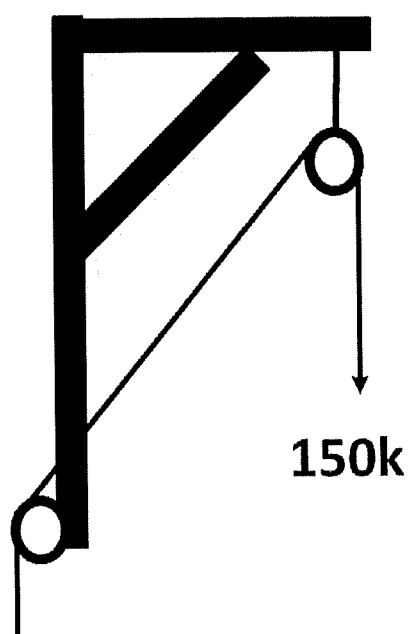
- ・使用前に作業前点検を実施し、損傷部分があった場合は使用を中止して下さい。
- ・本機を取付けるパイプ足場等には曲げモーメント300kg・mがかかりますので強度の確認をお願いします。
- ・取付クランプ(3カ所)のナットの締付けトルクは、35kg/10cmのトルクで確実に締め付けて下さい。
- ・定格総荷重は、使用するウインチの能力内で使用し、下記表記の総荷重内で作業して下さい。
- ・クランプ適合パイプ径：φ42.7、φ48.6 をご使用下さい。
- ・吊荷中は介錯ロープの真下付近には人を立ち入らせてはいけません。
- ・人の吊上げには使用しないで下さい。

製品規格

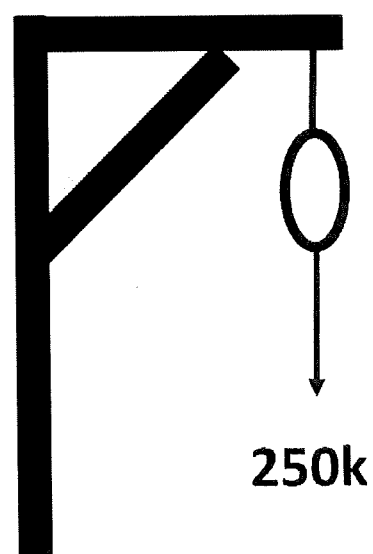
旋 回 半 径	724mm
旋 回 角 度	226度
アーム本体重量	14.0kg
介錯アーム重量	1.8kg

アーム定格総荷重

下置ウインチ



吊下げウインチ



【本機の特長】

ウインチのワイヤードラムから、最上部へ取付けられたシルバーユニアームのシーブへ垂直にワイヤロープを回すことでアームが軽く振れるようになり、安全に部材の取り込みを行うことができます。

また、介錯ロープをテコの原理を応用し軽く引くことで、植木・下屋根・アサガオ等の障害物を交すことが可能になりました。この2点が本機最大の特徴と言えます。

【介錯アームを使用するメリット】

介錯ロープをガイド代わりにして吊荷を揚げられます。

【内容詳細】

- ① ブラケットアーム先端に介錯アームを取付、そこへ介錯ロープを取付、ラッチロックフック式フックに補助ロープの付いた滑車(サンマブロック)を付け介錯ロープをガイドレール代わりにし、荷を吊り揚げる事ができます。
- ② 介錯ロープをガイドレール代わりにできる事で、現場で荷揚げ場所にアサガオ部分や下屋根等の障害物がある場合もかわして荷揚げする事ができます
- ③ 介錯ロープをガイドレール代わりにする事で、吊荷の回転を防止できます。
- ④ 介錯ロープ自体が上がったり下がったりしないので下で補助する作業者はロープを引くだけで安定した荷揚げができます。また介錯ロープはブラケット先端から降ろしているだけなので、フックを降ろした際にロープが足元に散らからず安全。
- ⑤ 介錯ロープの扱いが楽になるだけでなく、作業者は荷揚げ時、手の平が熱くなったり、フックを降ろした時にロープをたぐる事をしなくて済みます。
- ⑥ 据え置き型ウインチを使用した場合、ブラケットアームを回転させることが難しい場合がありますが、本体回転軸からワイヤーを取り出して回転軸部分に回転しやすい工夫をしていますので荷取りの際に軽く振る事ができます。
- ⑦ 一側足場、次世代足場のポケットもかわして設置する事ができます。
- ⑧ 介錯アームの取付、取外しは部品の落下を防ぐ方法で、取付はワンタッチ、取外しは安全を考慮してツータッチでできます。

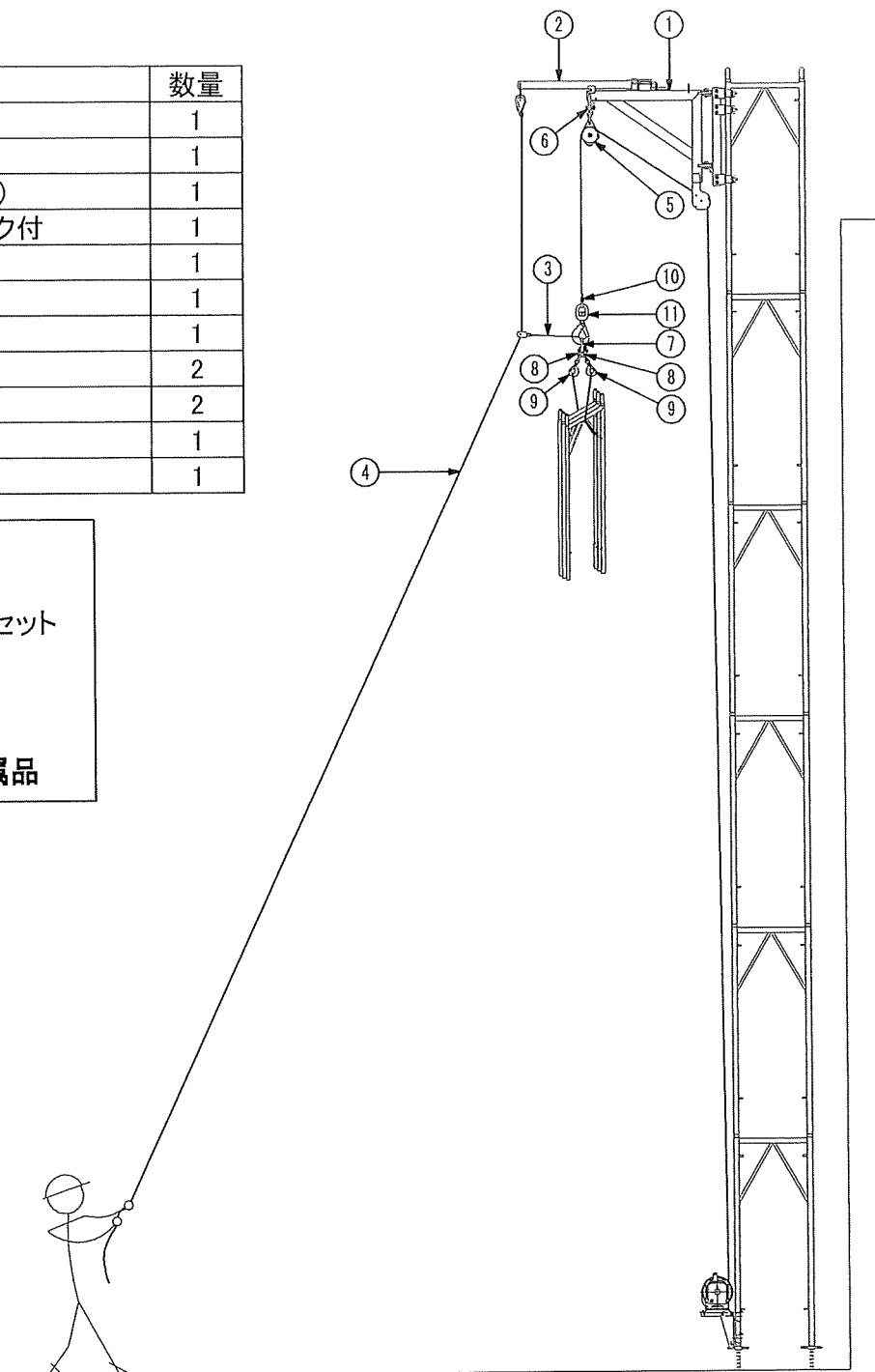
UP303 シルバーユニアーム

	品 名	数量
①	シルバーユニアーム(本体)	1
②	介錯アーム	1
③	補助ロープ(サンマブロック付)	1
④	介錯ロープ(PP材) 大径フック付	1
⑤	オタフク滑車 SB-5F	1
⑥	シャックル SB-14	1
⑦	打抜きリング 16×70	1
⑧	シャックル SB-12	2
⑨	ラッチロックフック(小)	2
⑩	シャックル RS-2t	1
⑪	ラッチロックフック(大)	1

セット内容

- ①～③ シルバーユニアームセット
- ④～⑦ 吊具セットA
- ⑧～⑨ 吊具セットB

⑩、⑪は、疾風ウインチの付属品

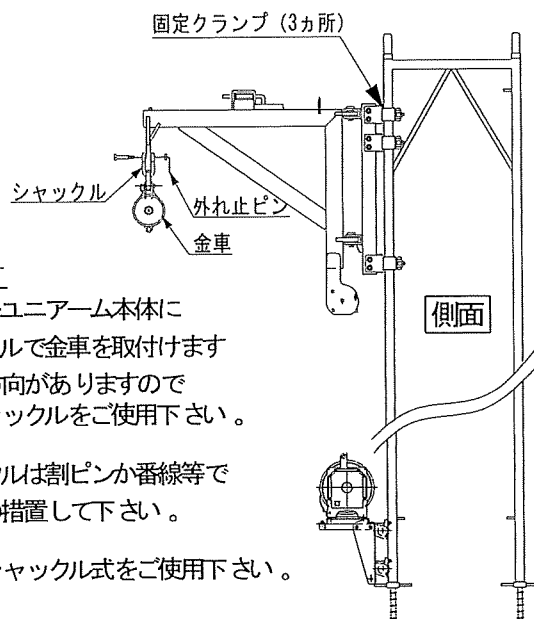
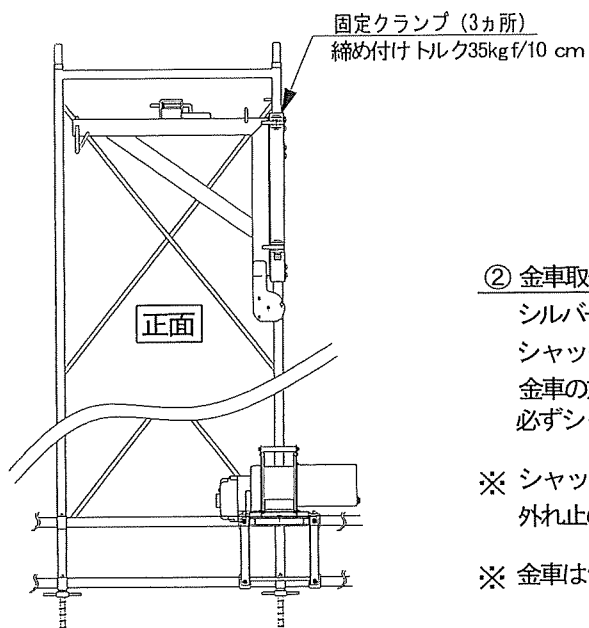


シルバーユニアーム 介錯ロープ吊上げ仕様

1. ②介錯アームへは、指定の④介錯ロープを必ずご使用下さい。太さ12mm又は14mmをご使用下さい。
2. ⑤滑車は、シャックル固定でシーブ径100mm以上の物をご使用下さい。(フック式は使用禁止)
3. ⑪ラッチロックフック 4.2t用を必ずご使用下さい。

注意: 吊荷は⑪ラッチロックフック(大)に直接吊らない事⑦リングを用いて⑧シャックル⑨ラッチロックフック(小)を使用します。(P7 ⑧参照)

シルバーユニアーム取付方法 ①



② 金車取付

シルバーユニアーム本体に
シャックルで金車を取付けます
金車の方向がありますので
必ずシャックルをご使用下さい。

※ シャックルは割ピンか番線等で
外れ止の措置して下さい。

※ 金車はシャックル式をご使用下さい。

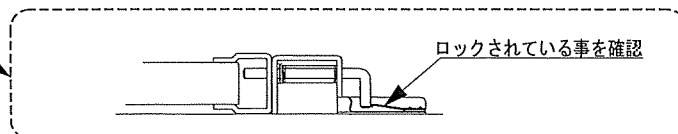
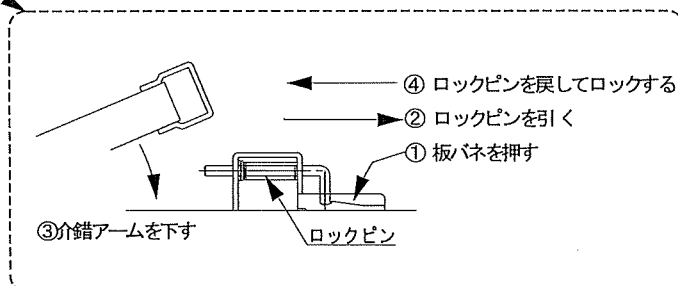
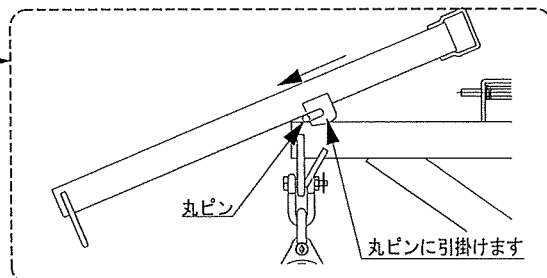
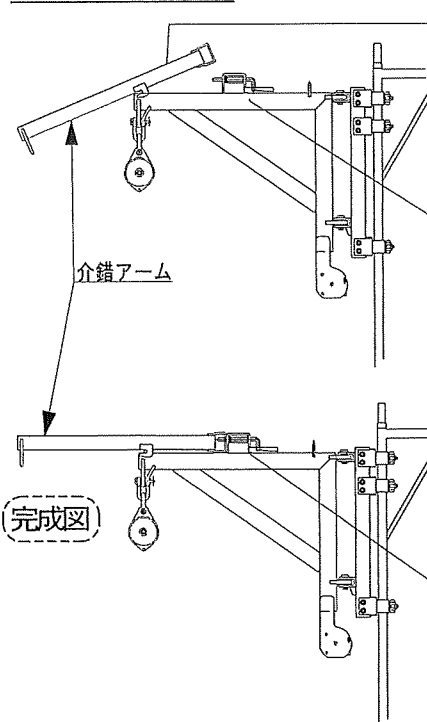
① シルバーユニアーム本体取付

支柱のセンターにウインチドラムのセンターを合せ
その線上にシルバーユニアームを取付けます。

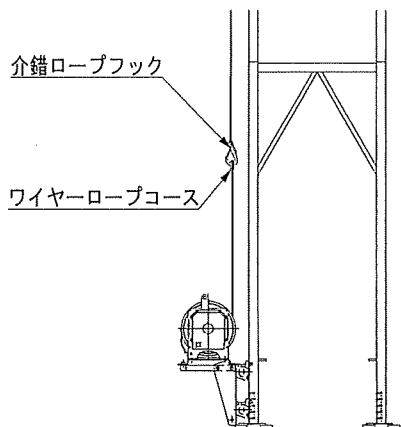
※ 適合パイプ径 : $\phi 42.7$ $\phi 48.6$

※ 十分な強度を確保した足場に取り付けて下さい

③ 介錯アームの取付



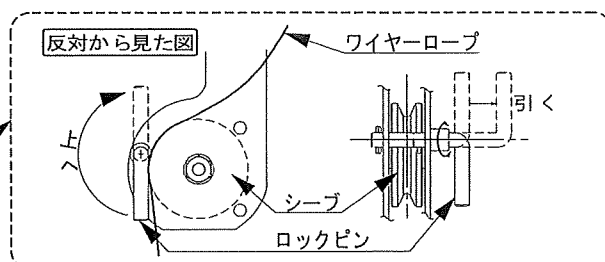
シルバーユニアーム取付方法 ②



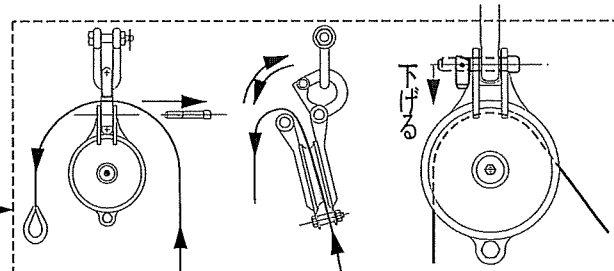
④ ワイヤーロープの取り回し

介錯ロープを最上部からウインチまで降ろして
介錯ロープに付いているフックをワイヤコースに
引掛け、操作スイッチの下を押してワイヤーロープを
引出して下さい。

※ 介錯ロープは、12mm又は14mmをご使用下さい。

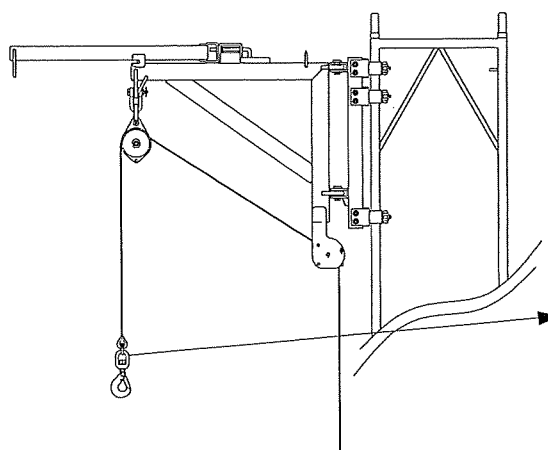


※ シルバーユニアーム本体下のロックピンを上に戻し
ロックピンを手前に引く、ワイヤーロープを通し
ロックピンを元に戻し、ロックを確認して下さい。



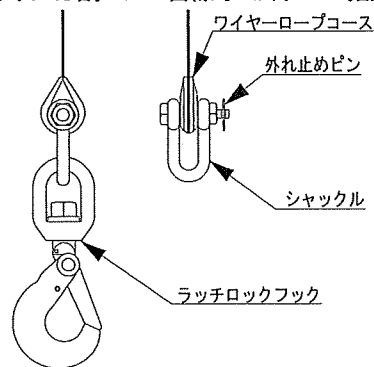
金車のロックピンを外し、ワイヤーロープを上記図の様に
ワイヤーを通し、ロックピンを差し込みピンの先端を90°
下に折り曲げて 抜けない事を確認して下さい。

⑤ ラッチロックフック取付



コースにシャックルを用いてラッチロックフックを取付して下さい。

※ シャックルは割ピンか番線等で外れ止め措置をして下さい。



シルバーユニアーム取付方法 ③

⑥ 介錯ロープ取付

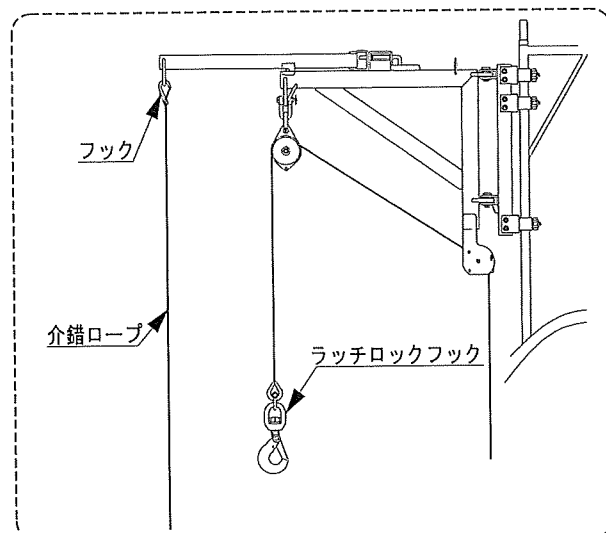
介錯ロープのフックを介錯ロープ専用アームに引掛けて下さい。

ロープの場合は、落ちないようにしぼるか、シャックル等を用いて下さい。

※ 介錯ロープは、12mm又は14mmをご使用下さい。

⑦ ラッチロックを下へ移動

操作スイッチボタンの下を押し、ラッチロックフックを最下位置まで降ろします。



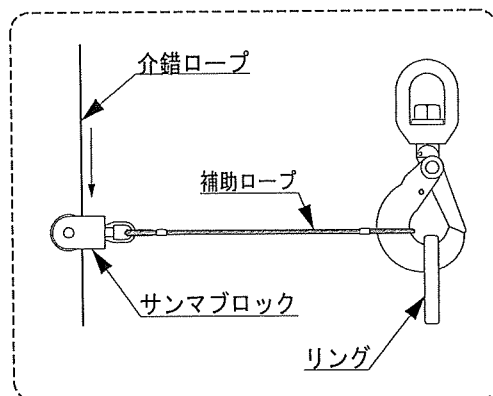
⑧ 補助ワイヤーの取付

介錯ロープの末端をサンマブロックの滑車に通します。補助ロープ反対側のワイヤーをラッチロックフックに引掛けます。

⑨ リング取付

ラッチロックフックにリングを入れフックをロックする。そのリングにフック等付けて下さい。

※ ラッチロックフックに直接玉掛ワイヤー等を引掛けないで下さい。補助ロープが外れる恐れがあります。

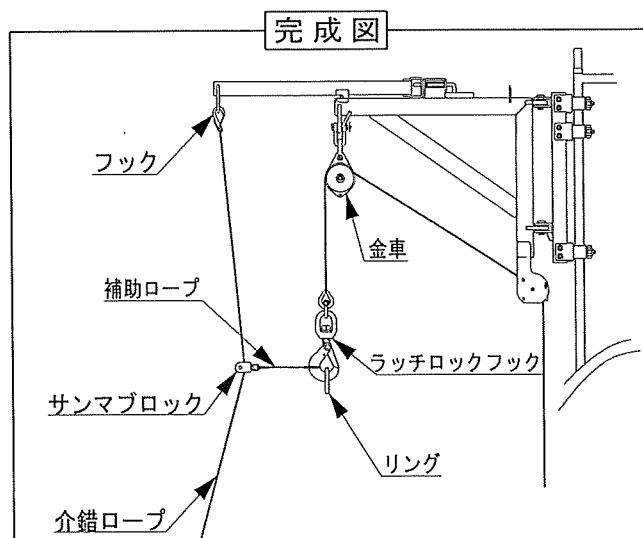


⑩ 試運転

2～3回上下し動作確認をした後、作業を行って下さい。

※ 異常が見受けられた場合、中止して下さい。

※ ワイヤーロープのたるみがあった場合は巻き直してから試運転を行って下さい



シルバークラム使用例

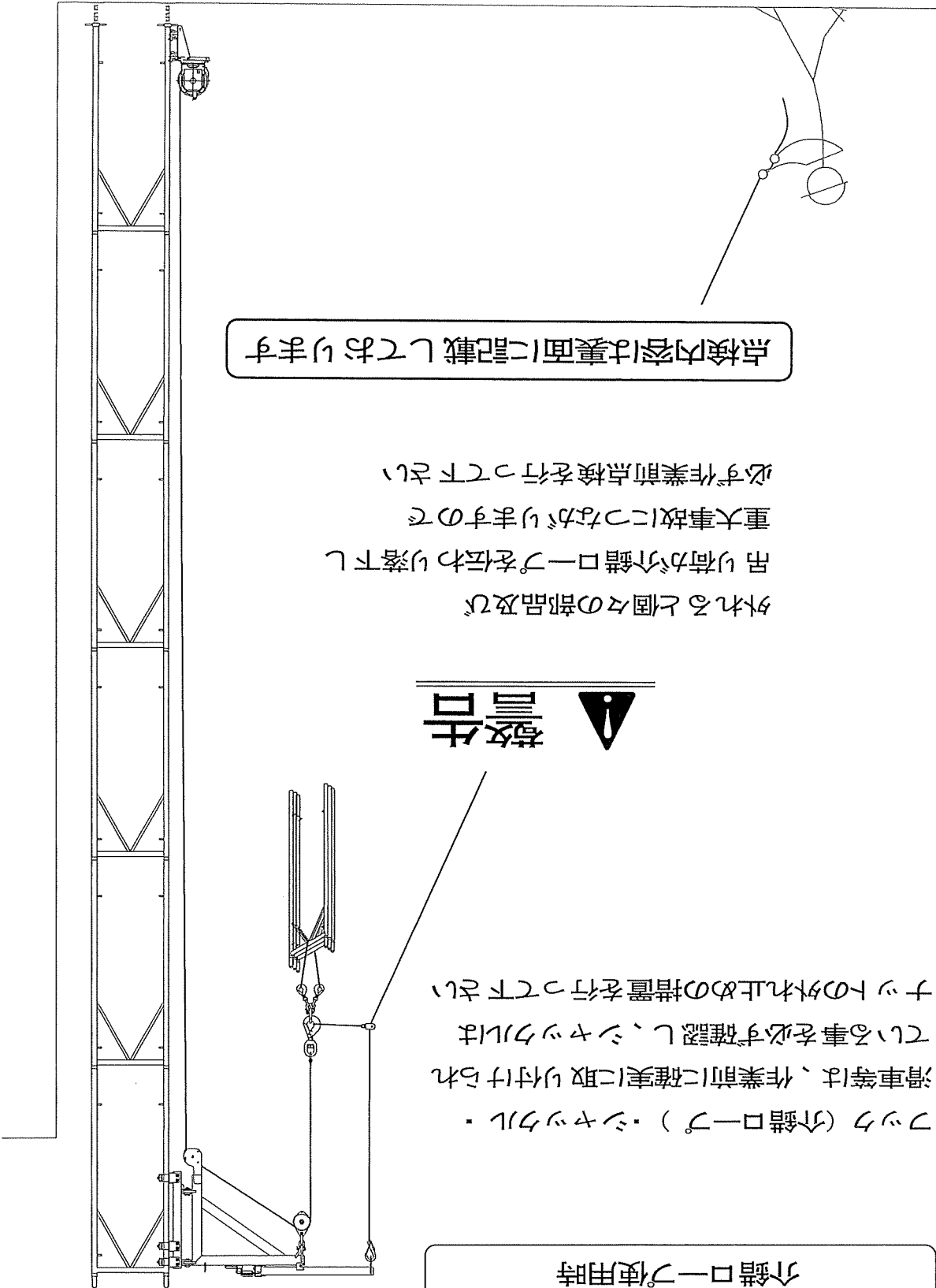
介錯ロープ使用時

フック（介錯ロープ）・シヤツクル・滑車等は、作業前に確実に取り付けられている事を必ず確認し、シヤツクルはナットの外れ止めの措置を行って下さい

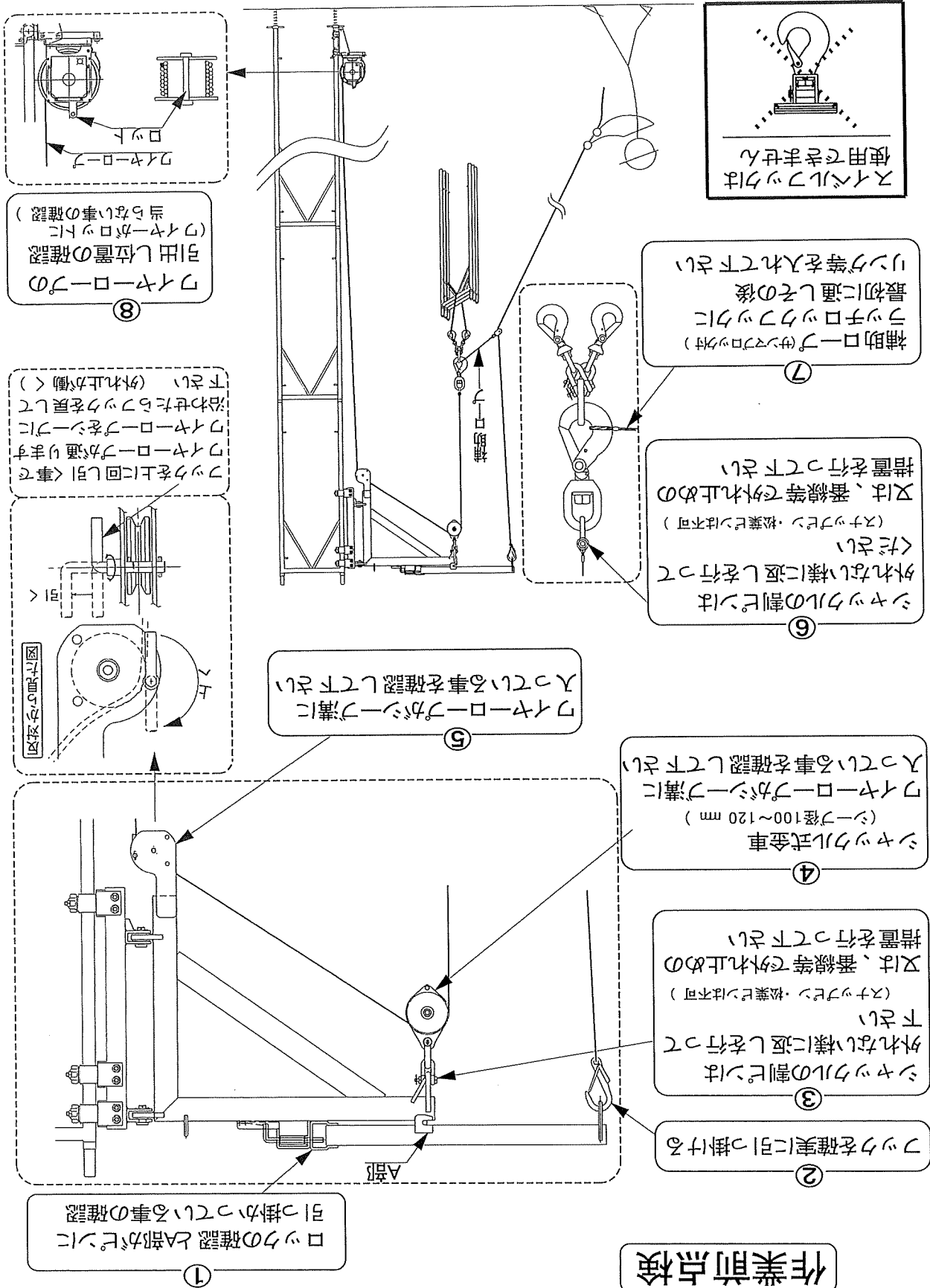
！ 警告

外れると個々の部品及び
吊り荷が介錯ロープを伝わり落下し
重大事故につながりますので
必ず作業前点検を行って下さい

点検内容は裏面に記載しております



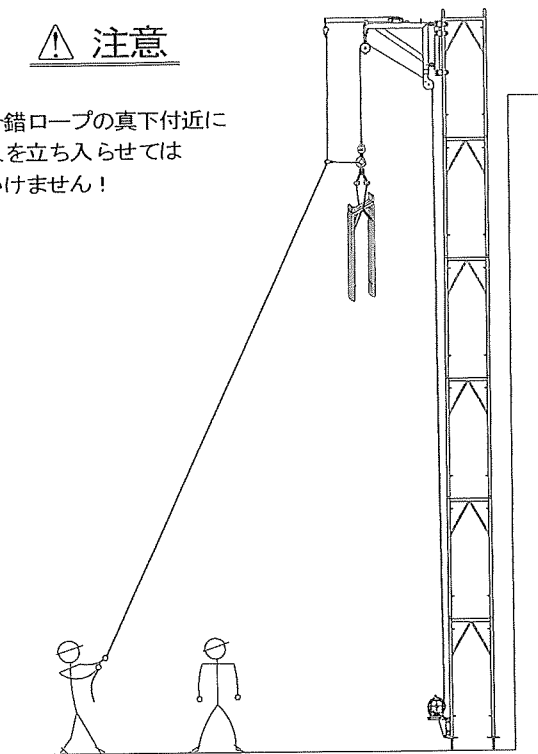
作業前点検



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ①

⚠ 注意

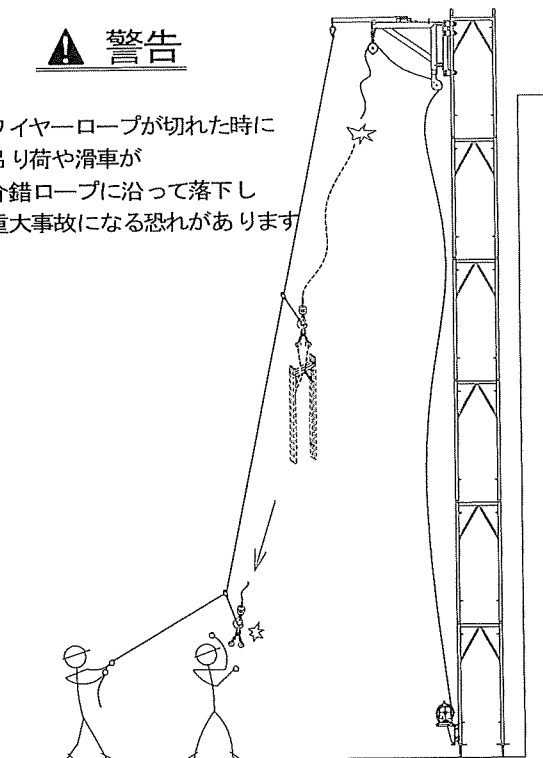
介錯ロープの真下付近に
人を立ち入らせては
いけません！



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ①

⚠ 警告

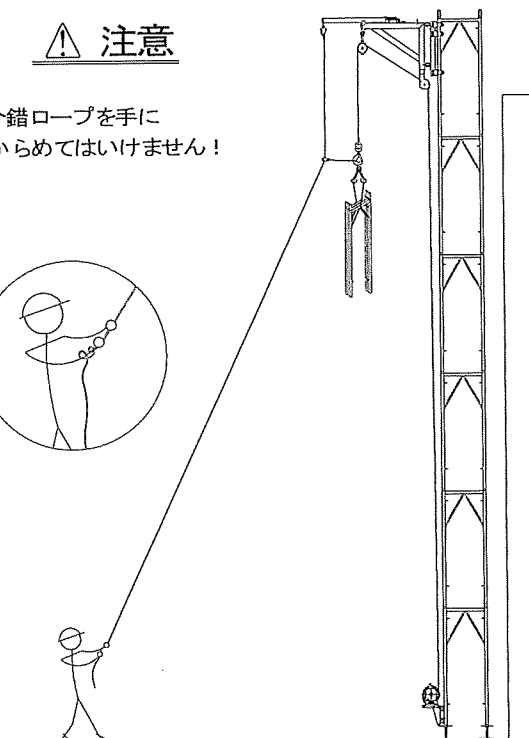
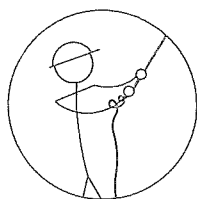
ワイヤーロープが切れた時に
吊り荷や滑車が
介錯ロープに沿って落下し
重大事故になる恐れがあります



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ②

⚠ 注意

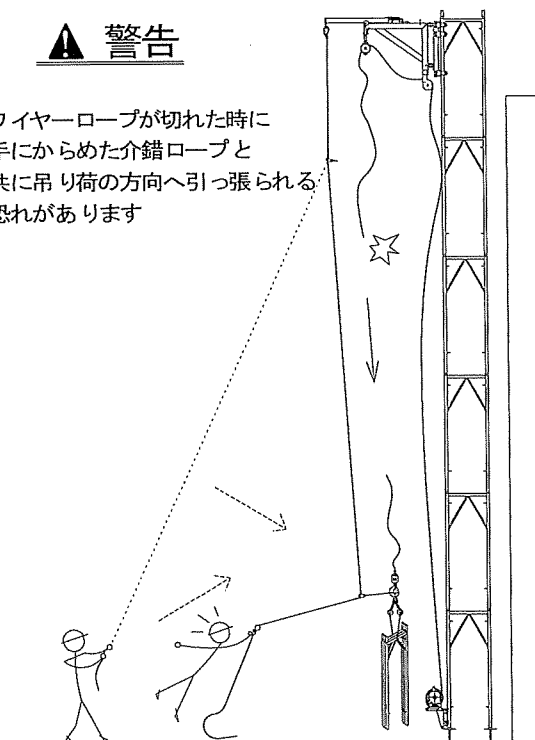
介錯ロープを手
にからめてはいけません！



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ②

⚠ 警告

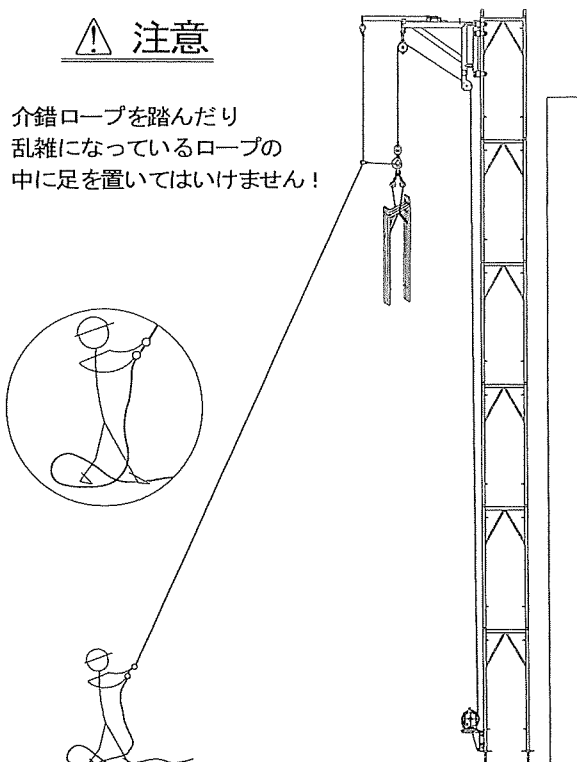
ワイヤーロープが切れた時に
手にからめた介錯ロープと
共に吊り荷の方向へ引っ張られる
恐れがあります



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ③

⚠ 注意

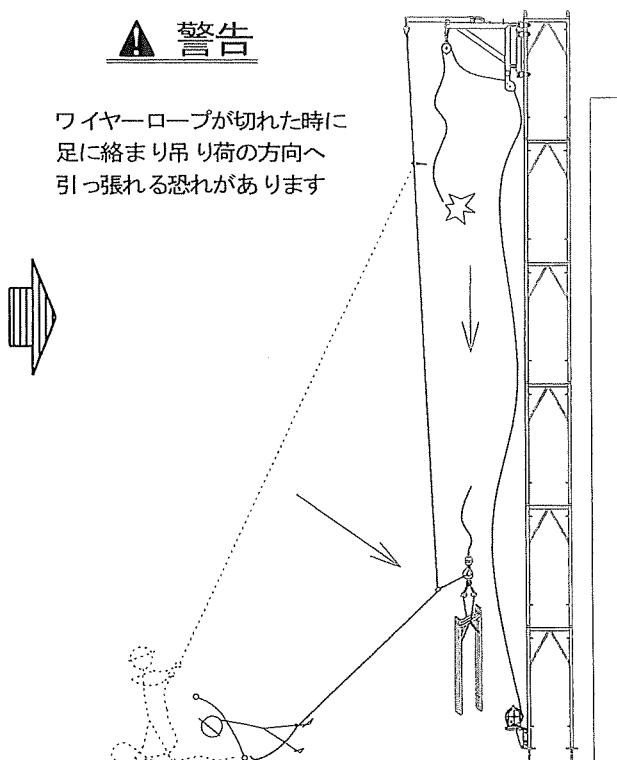
介錯ロープを踏んだり
乱雑になっているロープの
中に足を置いてはいけません！



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ③

⚠ 警告

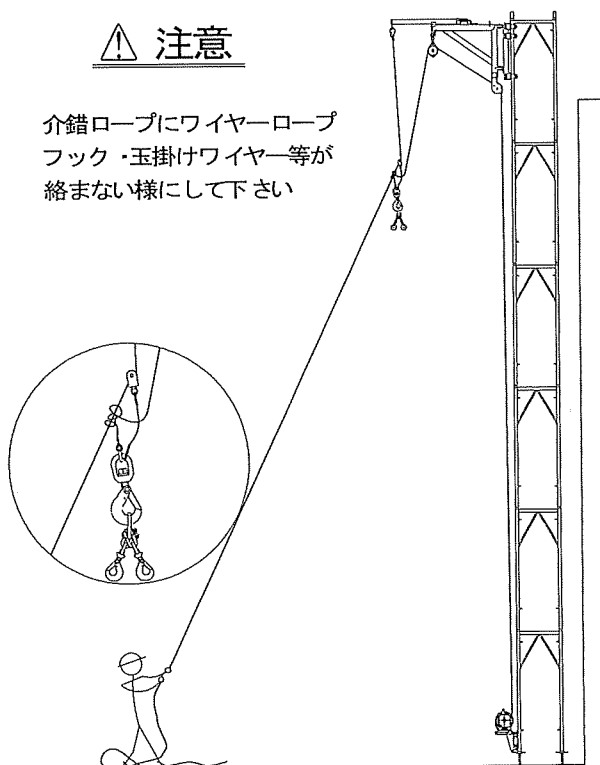
ワイヤーロープが切れた時に
足に絡まり吊り荷の方向へ
引っ張れる恐れがあります



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ④

⚠ 注意

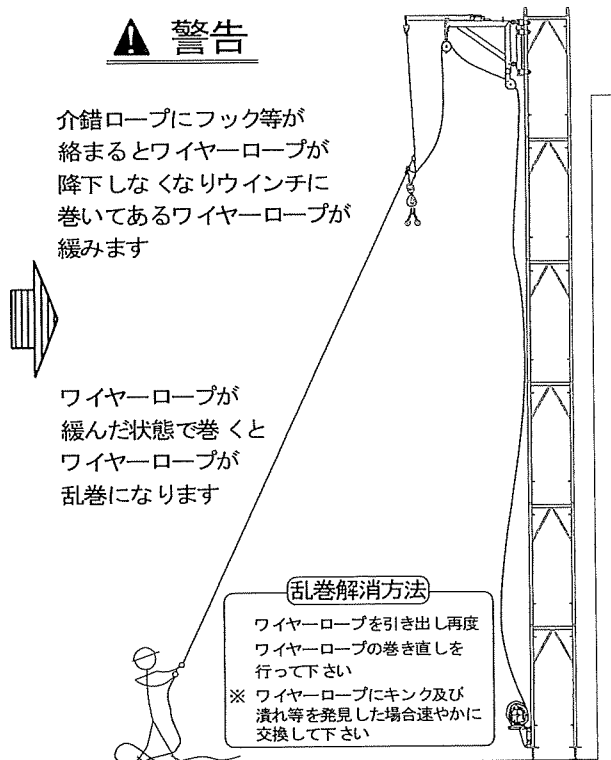
介錯ロープにワイヤーロープ
フック・玉掛けワイヤー等が
絡まない様にして下さい



ワイヤーロープ取扱による想定事故 ④

⚠ 警告

介錯ロープにフック等が
絡まるとワイヤーロープが
降下しなくなりウインチに
巻いてあるワイヤーロープが
緩みます



ワイヤーロープが
緩んだ状態で巻くと
ワイヤーロープが
乱巻になります

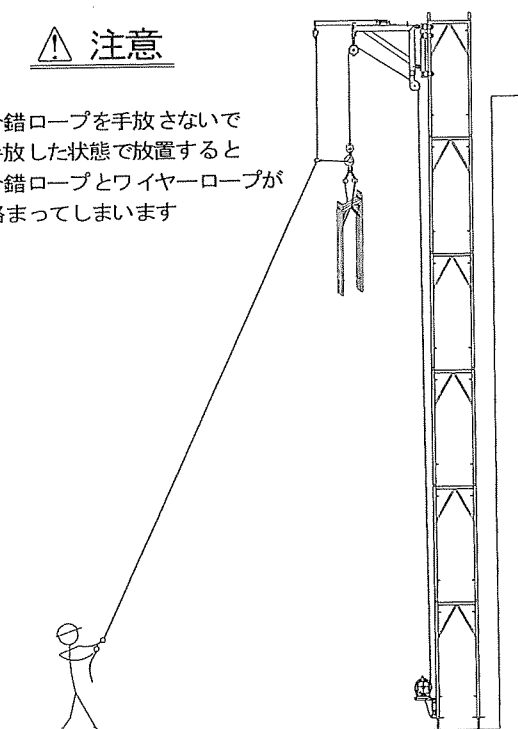
乱巻解消方法

ワイヤーロープを引き出し再度
ワイヤーロープの巻き直しを
行って下さい
※ ワイヤーロープにキンク及び
潰れ等を発見した場合速やかに
交換して下さい

ワイヤーロープ取扱による想定事故 ⑤

⚠ 注意

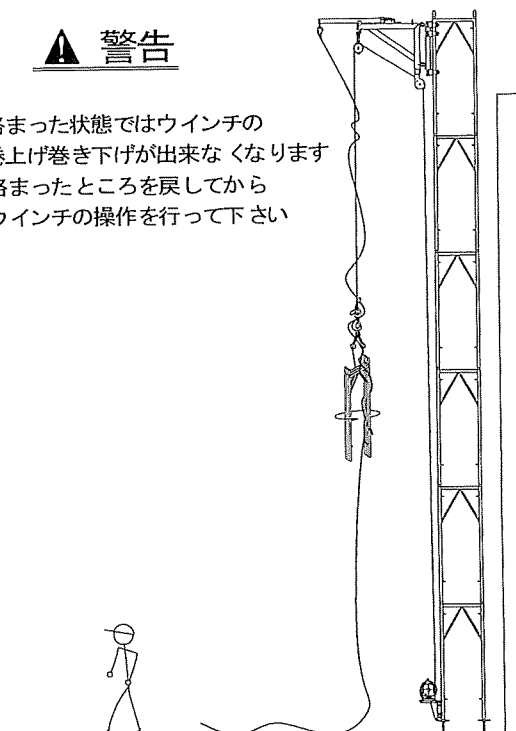
介錯ロープを手放さないで
手放した状態で放置すると
介錯ロープとワイヤーロープが
絡まってしまいます



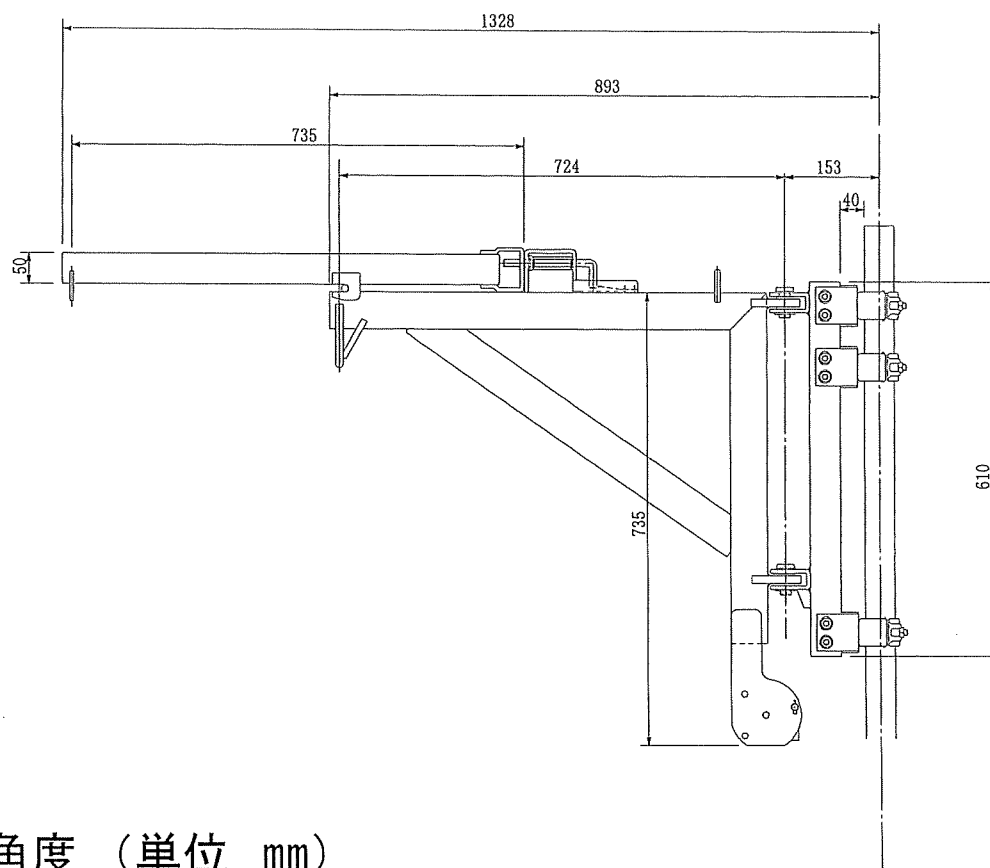
ワイヤーロープ取扱による想定事故 ⑤

⚠ 警告

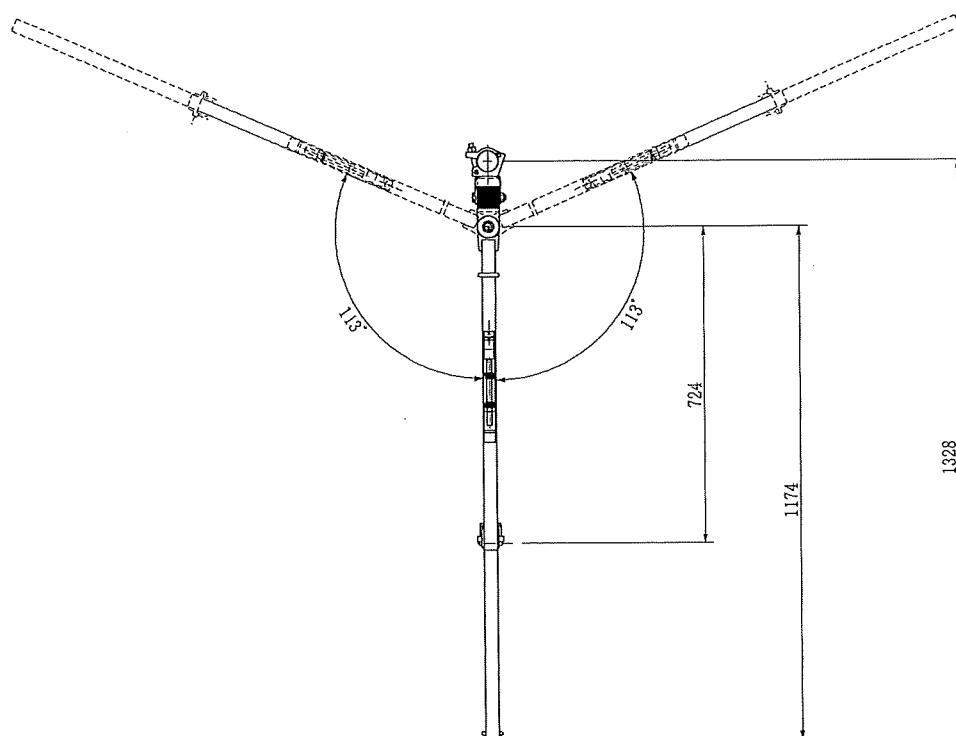
絡まった状態ではウインチの
巻上げ巻き下げが出来なくなります
絡まったところを戻してから
ウインチの操作を行ってください



寸法図（単位 mm）



旋回角度（単位 mm）



UP303シルバーユニアーム 作業始業前点検 チェックリスト

荷揚機を安全に効率よく使用するためには日頃の点検、定期点検が必要です。

点検を欠かさず安全作業に心がけて下さい。

シルバーユニアーム 作業開始前点検チェックリスト

年 月 日 ～ 月 日

点 検 項 目		点 検 結 果							状 況・修 正
		／	／	／	／	／	／	／	
本 体 確 認	各ボルト類の緩み、破損はないか								
	シーブ(滑車)部分の取付は正常か								
	介錯アーム取付けロックは正常か								
	補助ロープのナイロン滑車は正常か								
	錆や腐食はないか								
据 付 ・ 組 立	取付ける足場パイプの強度はあるか								
	固定用クランプの取付は正常か								
	垂直に取付けられているか								
	使用する滑車(金車)の破損はないか								
	シャックル類の外れ止めは付いているか								
	ワイヤーロープは正常に組付けているか								
	介錯ロープにキズ、痛みはないか								
	ラッチロックフックのロックが正常に効くか								
動 作	旋回軸の回転は正常か								
	シーブ(滑車)部分の回転は正常か								
	試運転は正常か								
そ の 他									
点 検 者 確 認 欄									

部品のご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点が御座いましたら、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはユニパー(株)にお問い合わせ下さい。

※ 改良のためお断りなく仕様、外観などを変更する事があります。

製造元

 **ユニパー株式会社**

神奈川県横浜市都筑区大熊町814

TEL 045-471-0015

UP788RC-100L

疾風 無線タイプ 部品明細表

〔部品明細〕

No.	部品名・型式	主仕様	数量	備考
1	ウインチ本体	ワイヤー5×100m付	1	
2	ウインチベース		1	
3	ウインチベースプレート	ウインチ本体に取付け	1	
4	電装ボックス	無線仕様	1	
5	無線リモコン(送信機)		1	
6	ラッチロック		1	
7	電源コード(プラグ付)		1	
8	接続コード2m(黒)	8P/8Pプラグ付	1	
9	シャックル	ラッチロック用	1	

追加部品

1	UP303 シルバーユニアーム		1	
2	無線リモコン(送信機)	オプション追加分	1	
3	吊具Aセット		1	
4				
5				
6				

備考

--